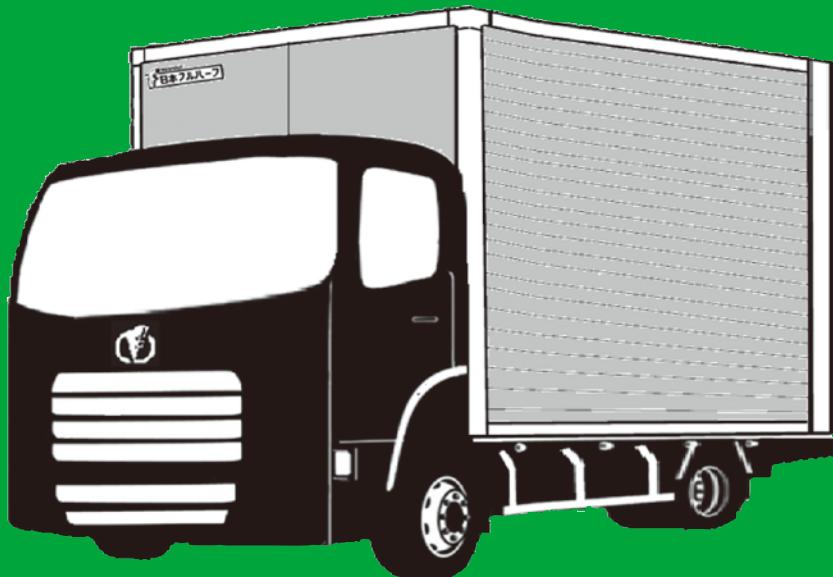


ドライバン 取扱説明書



26.01

- お車を安全快適にご使用いただくため、ご使用の前に本取扱説明書を必ずよくお読みください。
- お車をゆずられる場合は、次のオーナーのために本取扱説明書を必ず車載してください。

ご使用の前に

この度は、日本フルハーフ製のドライバンをお買い上げいただきまことにありがとうございます。

この取扱説明書は、弊社製ドライバンの正しい取扱いと点検や手入れについて記載しております。

積荷をいつも安全確実に輸送するために、この取扱説明書を良くお読み頂き正しい使用方法にて安全に永くご愛用くださいますようお願いいたします。

ご使用の前に本書を必ずお読みください

- 本書はドライバン車のボデーについて記載しております。車両や関連機器の取扱いについてはそれぞれのメーカーが発行する「取扱説明書」をご覧ください。
- フルゲートリフター装着車については別冊「フルゲートリフター取扱説明書（別冊）」をご覧ください。
- 床搬送装置及びその他機器の取扱いについてはそれぞれのメーカーが発行する「取扱説明書（別冊）」をご覧ください。
- 本書はいつもお車に保管してください。必要なときにはお役に立ちます。
- 別添「保証書」もご覧ください。
- 「安全に使用していただくために」や  警告  注意  アドバイス  知識マークのところは重要です。しっかりとお読みください。

保証について

製造上の責任にて発生した架装部位の故障については、別添の保証書に記載されている範囲で無料修理させていただきますので保証書をご確認の上、お買い上げの販売店までお申し付けください。

取扱い上の不注意によって生じた故障および事故については保証できません。

本取扱説明書記載の使用方法及び点検・お手入れを守らない場合は、保証期間中であっても保証の適用外となりますので十分ご注意ください。

機能維持のため改造変更を禁止します。もし必要が生じた場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

独自の改造により生じた故障、事故等については一切責任を負いません。

販売店ならびにサービス拠点の所在については別紙の「営業拠点・サービス拠点一覧」よりご確認ください。

● 本書で使用されているマークは以下のようになっています。

<p>本書では危険の発生を防止して頂くために大切な事項をシンボルマーク (▲) とシグナルワード (警告、注意) で表示してあります。</p> <p>シグナルワードは次のような危険の重大さを表しています。</p>	
▲ 警 告	取扱いを誤ると死亡または重傷を負う可能性がある状況を示します。
▲ 注 意	取扱いを誤ると軽傷事故や物的損害の発生が予想される状況を示します。
 アドバイス	ドライバンのご使用にあたり守って頂きたいことを示します。
 知 識	ドライバンを快適にご使用頂くために知っておいて頂きたいことを示します。

● 本書は次表に示すドライバンの共通事項及び重要事項等について説明しています。

一般貨物アウタースキン・シリーズ

車格 (パンの大きさ)	タイプ クローズドバン モ デ ル	適応シャシの概要
小 型	L K	2 ~ 3 トン (小型4輪含む)
中 型	L B	中 型 (4 ト ン)
大 型	L C	大 型
備 考	製造番号(工番)を表示する場合に用いる型式は、モデルの頭部にDを付す。 例 : L C (大型) → D L C	

- お客様の個別仕様により本書の内容の一部がお客様の車両とが一致しない場合がございますのであらかじめご了承ください。
- 本書ではボディを後方より見て左右を説明しております。
- ★ ご不明な点がございましたらお買上げの「自動車販売店」ならびに「日本フルハーフ各支店」におたずねください。

総目次

ご使用の前に

1. 安全に使用していただくために

2. 各部の名称

3. ドアの開閉

4. 非常用装置

5. 緊締装置

6. 床搬送装置

7. 電装品

8. 付属品装備品

9. 点検、手入れについて

10. 付属書

目 次

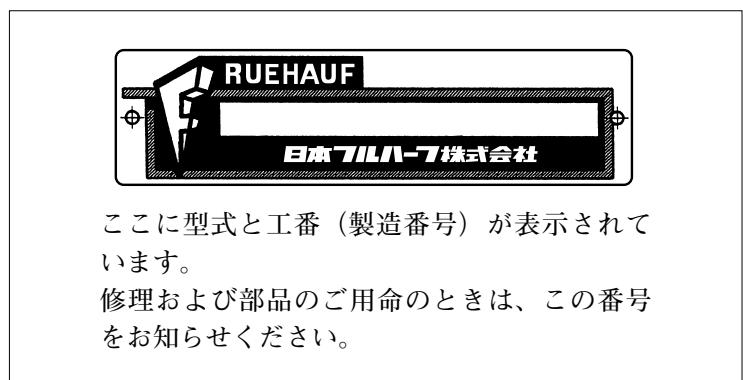
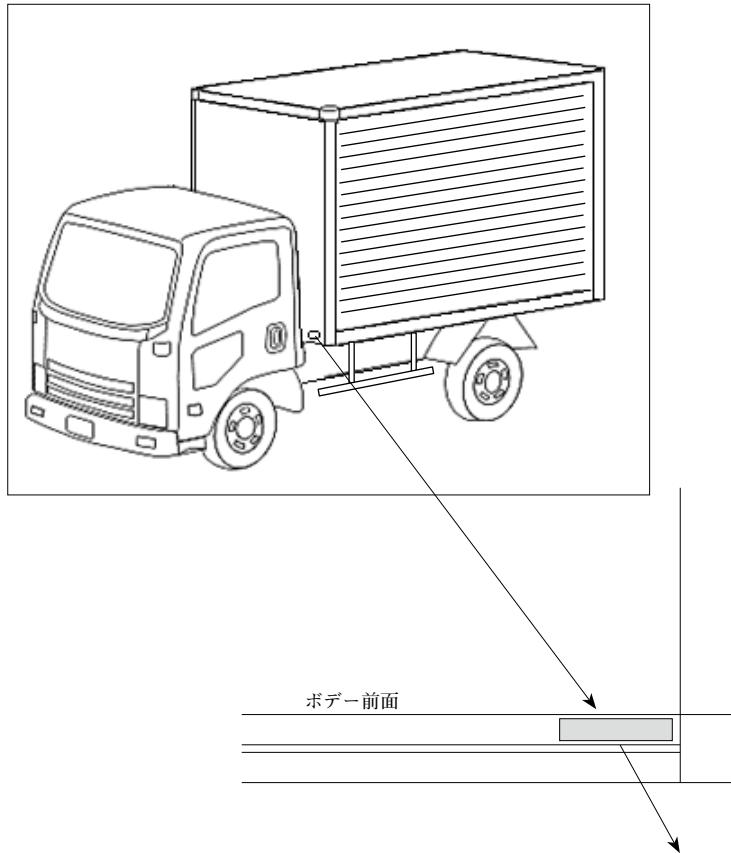
ご使用の前に.....	1
総目次.....	3
目次.....	4
工番（製造番号）について.....	5
1. 安全に使用して頂くために.....	6
2. 各部の名称.....	20
3. ドアの開閉.....	22
1. リアドア 22	
1. 観音ドア（両開タイプ） 22	
ラッチ式 22	
ナイスキー式 23	
ダブルロックロッド式 25	
2. 観音ドア（3枚開タイプ） 27	
3. 観音ドアの固定装置 28	
通常の固定 28	
簡易型 28	
ハンドル型 29	
ノッチ型 30	
4. ロールアップドア 31	
フルタイプ：ワンタッチロック式 32	
フルタイプ：錠錠ロック式 33	
セミタイプ：ワンタッチロック式 35	
5. はね上げドア 37	
2. サイドドア 38	
1. 観音ドア（両開タイプ） 38	
2. 観音ドア（片開タイプ） 38	
3. スライド開タイプ 39	
ワンタッチタイプ 39	
N Fタイプ 40	
4. 非常用装置.....	41
1. 非常警報装置 41	
2. 非常解錠装置 42	
5. 繫締装置.....	44
1. ラッシングレール 44	
2. ラッシングベルト 44	
3. 角型ビーム 45	
4. 端末金具 45	
1. ロープタイオフ 45	
2. ソケット 46	
5. ラッシングビーム 46	
1. ハンガータイプ 46	
2. ショーリングバー 46	

6. フック 47	
1. 床面埋込フック 47	
2. 側面埋込フック 47	
6. 床搬送装置.....	48
1. 手動式 48	
2. 動力式 51	
7. 電装品.....	52
1. 非常用スイッチ 52	
非常警報 52	
警報の解除 52	
2. マーカーランプ 53	
3. 室内灯・室内作業灯 53	
4. 路肩灯 53	
8. 付属品装備品.....	54
1. リアバンパ 54	
2. 作業台 54	
3. 渡し板 57	
4. 工具箱 58	
5. スペアタイヤキャリア 59	
スペアタイヤの取外 59	
スペアタイヤの取付 60	
6. 後部格納箱 61	
9. 点検、手入れについて.....	62
1. 新車時の点検 62	
2. 日常点検・定期点検 62	
3. お手入れ 73	
ボデー外板のお手入れ 73	
ボデー内お手入れ 73	
スライド式サイドドアの給脂 73	
鍵穴への給脂 74	
ボデー各部への給脂 74	
樹脂部品のお手入れ 75	
4. ロールアップドアの点検 76	
5. 定期交換部品と消耗品 76	
定期交換部品 76	
消耗品 76	
6. 参考配線図 77	
10. 付属書	78

工番（製造番号）について

■工番（製造番号）表示位置

ボデー前面左側下部 例. DLC T7DA001



1. 安全に使用して頂くために

事故や故障を避けるため、以下のことをお守りください。

荷物を積降ろしするとき

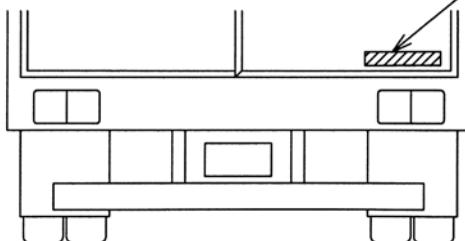
▲警告

過積載の禁止

過積載は法律で禁止されています。

過積しますとブレーキ制動力が不足となり事故につながります。

最大積載量□,□□□kg



スペアタイヤや工具類は積載物（荷物）扱いになります。

▲警告

片荷の禁止

荷物の片寄った積み込みの禁止。

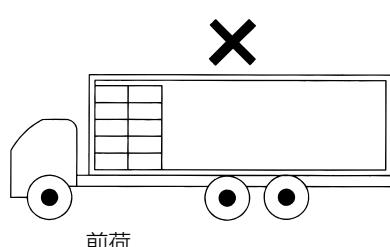
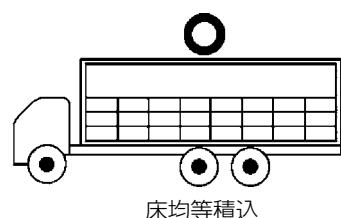
片寄った積み方をしますと、運転操作が不安定になり横転など、重大な事故を引き起こします。

荷物は床全体に荷重が均等にかかるよう積み込んでください。

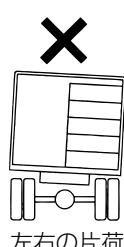
前 荷：前輪に荷重がかかりすぎパンクのおそれがあります。

左右の片荷：荷崩れや車両が横転するおそれがあります。

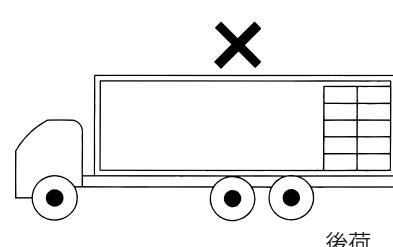
後 荷：前輪が軽くなり、ハンドル操作性が悪くなります。



前荷



左右の片荷



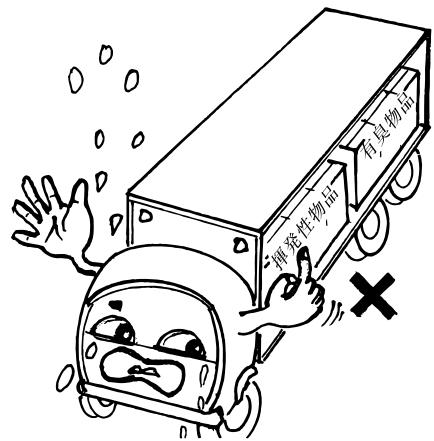
後荷

⚠ 警告

危険物の積み込み禁止

ガソリンなど揮発性、引火性のある危険物を積み込むと、爆発など、重大な事故につながります。

バンボデーは気密性が高いためガソリン等が気化し庫内に充満すると爆発の危険性があります。



⚠ 警告

フォークリフトの乗り込み禁止

ボデー内に、フォークリフトを乗り入れると、床が破損し、重大事故になるおそれがあります。

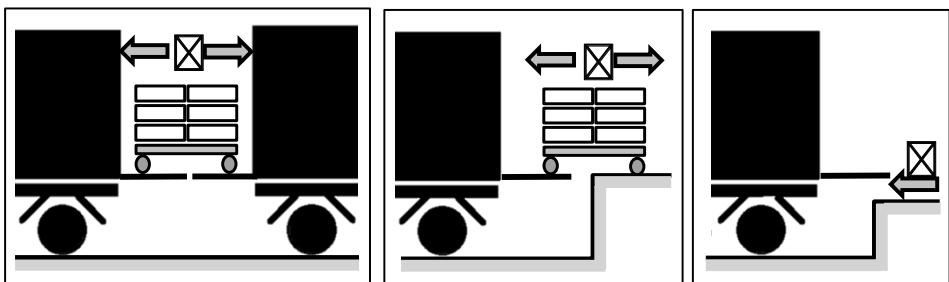


フォークリフト乗り入れが必要な場合は特別仕様をご指定ください。

⚠ 警告

不安定な渡し板の使用禁止

渡し板を図のような不安定な方法で使用すると、挟まれ、転落など、重大な事故につながります。



▲警告

ボデー後端、開口部を確認しない作業の禁止

ボデー後端部、サイドドア開口部を確認せず作業をすると、転落など重大な事故につながります。



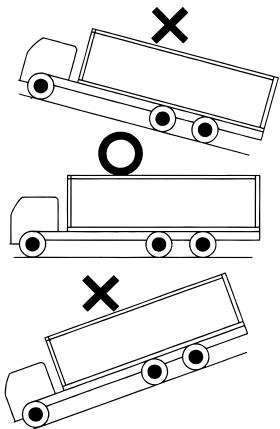
⚠ 後方転落注意

▲警告

傾斜地における手動床搬送装置の使用禁止

車両が傾斜した状態で搬送装置を操作すると、荷物の制御ができなくなり、転落など、重大な事故につながります。

傾斜地などでの荷役が避けられないときは、ロープ、ワインチなど確実に荷物を制御できる手段を併用してください。



▲警告

荷物を緊締なしでの走行禁止

走行中、緊締のない荷物の荷崩れによりボデーを破損したり、車両の横転など、重大事故になるおそれがあります。

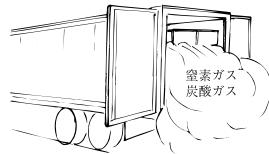
ラッシングベルトやラッシングビーム等を使用して荷物を緊締してください。

荷降ろしの時は、ドアを少し開き、荷崩れしていないことを確認し、開放してください。

▲警告

換気の十分でない庫内への立入禁止

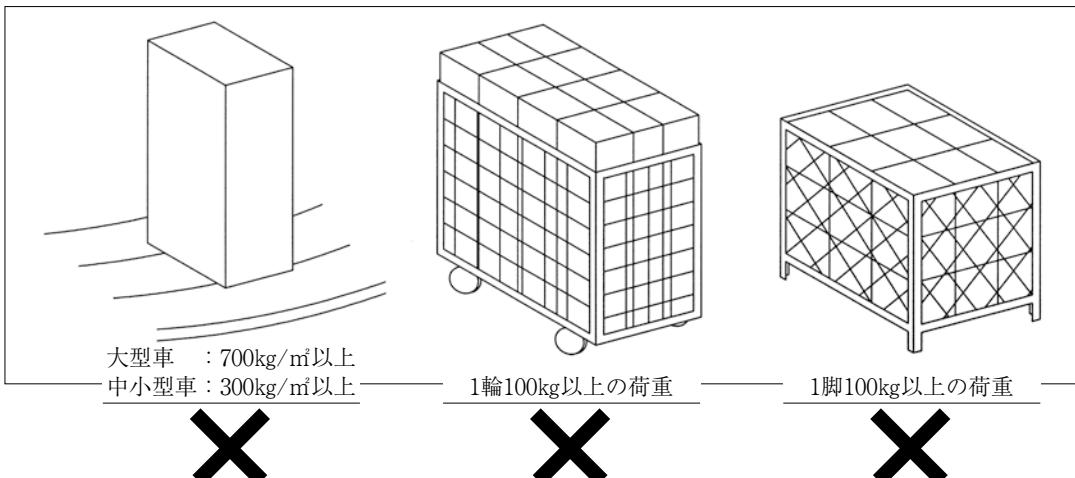
庫内に、呼吸のできないガスが有る場合があり、窒息など重大な事故につながります。
このような場合は換気を十分行ってから入ってください。



▲注意

床への集中荷重禁止

床との接地面積が小さく重い荷物の積み込み禁止。
四本足（車輪付き）パレットに重い荷物を入れての積み込みや重い荷物をハンドリフターでの荷役禁止。
床に集中荷重をかけますと床板の損傷の原因となります。



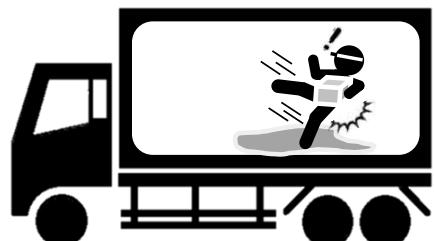
集中荷重対策としては特別仕様（床鉄板張り等）をご指定下さい。

▲注意

床面の水濡れ、結氷に注意（床が金属仕様の場合）

結露などで床面が濡れています。結氷してしまったりする場合があります。滑りやすく転倒しきがをしますので、十分気を付けましょう。

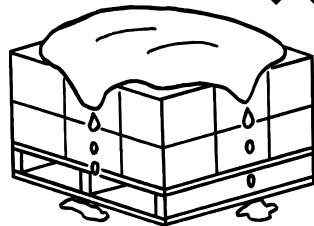
水分は、結氷する前に払拭しておきましょう。水ぬれ、結氷時の作業には滑りにくいうつをお使いになることを推奨します。



▲注意

水濡れ荷物の積み込み禁止

防水対策の行われていない庫内に、濡れたり雪・氷の付着した荷物の積み込みを行わないでください。防水対策の行われていない庫内を濡らしますと、床板やその他の内張り材に反りや割れを発生させ又、床下の防水材の所に水が溜まり、金属のサビや床材の腐りを発生させる原因となります。

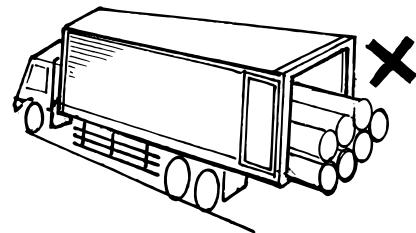


▲注意

目的外用途での使用禁止

ドライバンは輸送機器としてご利用ください。水濡れ・塵埃・汚れを嫌う荷物を中心にお使いください。

目的外の用途に使用すると車両の安全性を損なったり、本来の機能が不具合になったり事故等の原因になることがあります。



▲注意

発熱する装置付近の積荷注意

火災の原因になりますので、発熱する装置（ヒーター、ライト等）付近に物を置かないでください。

※庫内のランプ類は使用後必ず電源OFFにしてください。



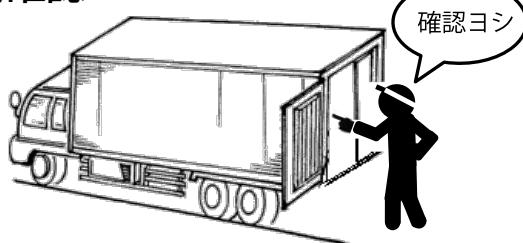
▲警告

ドアロック時のボデー内確認

△ ドアロック時の注意



ドアをロックする時、庫内に人がいないことを確認して下さい。



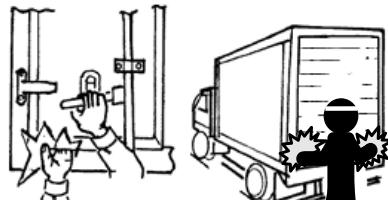
万一庫内（ボデー内）に人が閉じ込められ長時間放置されると危険です。

▲注意

手や指の挟みこみ注意

ドアの開け閉めのときに、指や手を挟ま
れないようにしてください。

特にロールアップドアのパネル継目部分
には手を掛けないでください。指を挟み
ます。

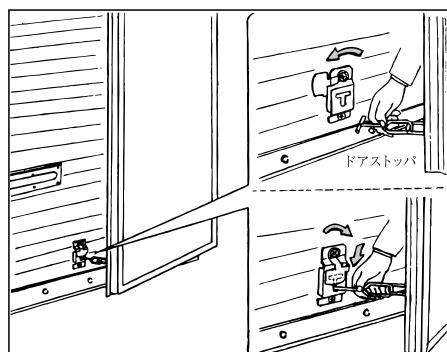


▲注意

ドアの開放と固定

1. ドアを開けるときは他の交通・物・
特に歩行者に気をつけてください。
2. 開けたドアは必ずストッパで固定し
てください。

固定していないドアは、通過車両にあおら
れたり風などで動いて思わぬ事故の原因
になります。

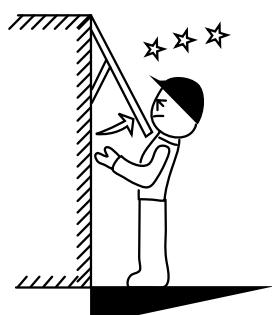


▲注意

はね上げドア開放時に注意

はね上げドアを開けるとき、ドアから手を放すとド
アが急激に開き、体に当たる危険があります。

はね上げドアを開けるときは、必ず片手をドアに添
えて、もう片方でベルトをゆっくり引く操作を行っ
てください。



走行の前に

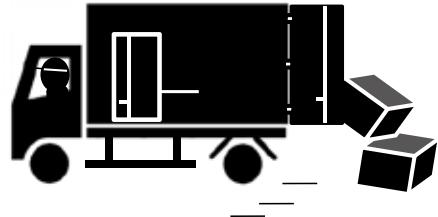
▲警告

出発時のドアロック点検

出発の前に各ドアが確実にロックしてあるか点検してください。

走行中にドアが開いて煽られたり荷物が落ち後続車や歩行者等に危害を与えます。

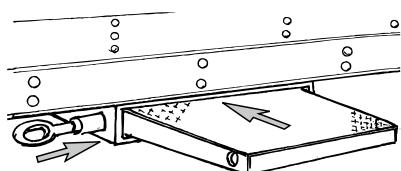
ドアロックは？



▲警告

作業台の格納が不完全な状態での走行禁止

作業台の格納が不十分だと、走行中に飛出し歩行者などに接触し、重大な事故を引き起こします。



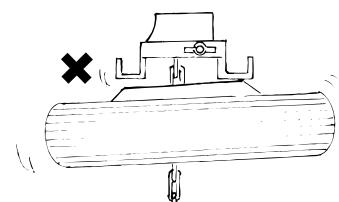
▲警告

スペアタイヤの固定が不完全な状態での走行禁止

スペアタイヤの固定が不十分だと、走行中脱落し、重大な事故を引き起こします。

始業点検時必ず固定している事を確認してください。

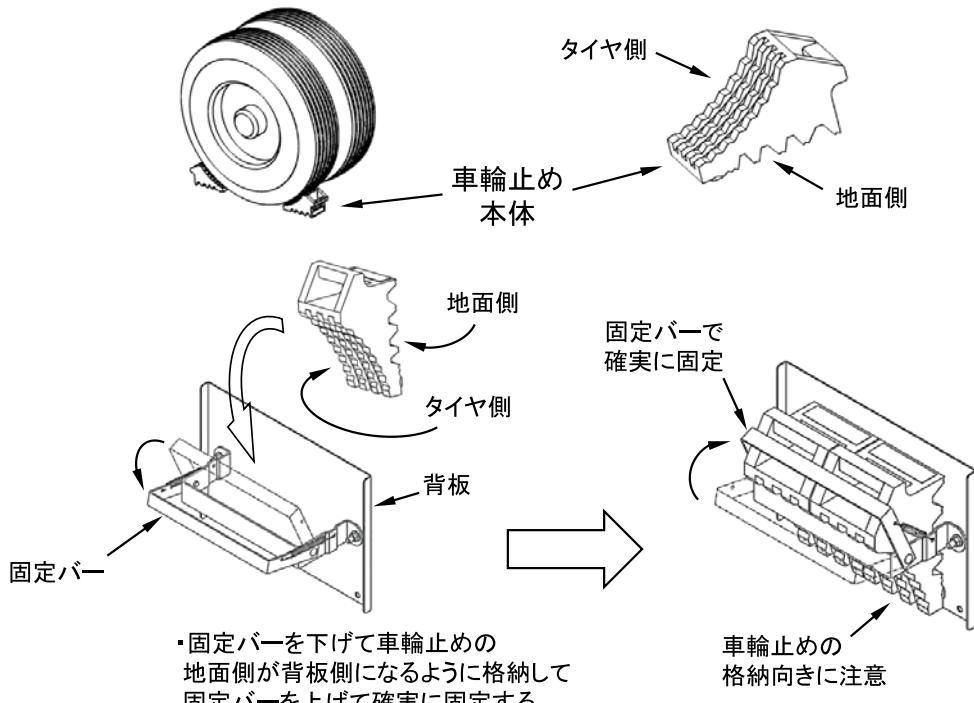
※スペアタイヤ・スペアタイヤ取付装置・ツールボックスは、法定点検項目に入っています。



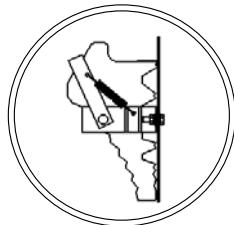
▲ 注意

車輪止めは正しい向きで確実に格納する事

- ・車輪止めの格納を行わないで走行すると、
格納装置の破損や、車輪止めが脱落し
重大事故発生になるおそれがあります。



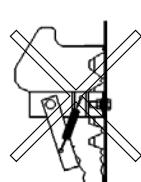
固定バーにはバネを使用しています
手や指の挟み込みに十分注意してください。



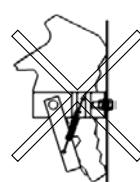
正しい格納



車輪止め逆向き格納



固定バーをしない

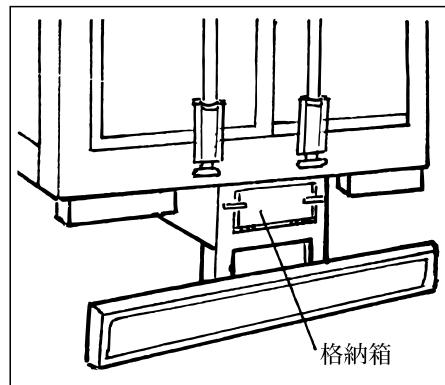


▲警告

後部格納箱、工具箱の施錠が不完全な状態での走行禁止

1. 後部格納箱を使用したときは蓋についている「落し錠」でしっかりと施錠してください。
2. 工具箱の使用後も確実に施錠してください。

積込み品のローダやコンベア・工具等が落下すると思わぬ事故を引き起します。



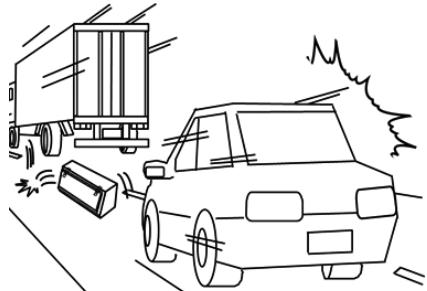
▲警告

架橋装品（下廻り品）などの取付状態の確認

スペアタイヤや工具箱・リヤバンパなどの架橋装品の固定が不十分だと、走行中に脱落し、重大な事故を引き起す可能性があります。

日常点検時に必ず取付状態を確認してガタや損傷がある場合には修理を行なってください。

※スペアタイヤ・スペアタイヤ取付装置・ツールボックスは、法定点検項目に入っています。



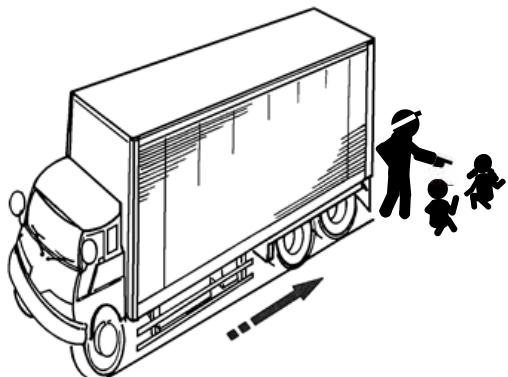
走行するとき

▲警告

車両後退時の安全確認

1. 後退をするときは誘導員の指示に従ってください。
2. 誘導員のいない場所で後退せざるを得ないときは降車して後方の安全を確かめた後、ゆっくりと行ってください。

後方の安全確認をしないで後退すると危険です。
バックブザー、カメラ等を整備しておいてください。

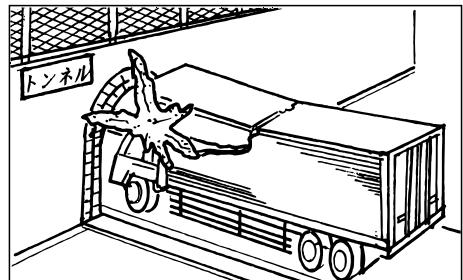


▲注意

キャブとボデーの段差に注意

トンネル・門の梁・ガード下などを通過するときはボデーがキャブより高いことに気をつけてください。

構造物に当たるとボデーの破損や事故になります。



▲警告

テールゲートなどのメインスイッチがON状態での走行禁止

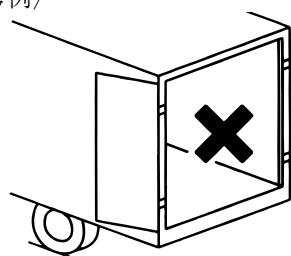
走行中の振動などで装置が動き、重大な事故を引き起こします。

▲注意

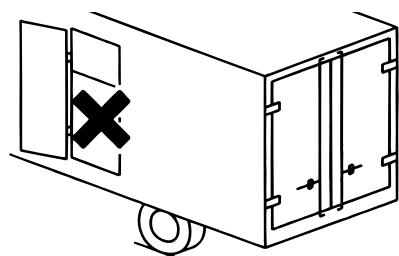
ドア開放での走行禁止

ドア（サイド及びリア）を開けたままで走行しますと故障、事故の原因となります。必ずドアを閉めロックしてから走行してください。

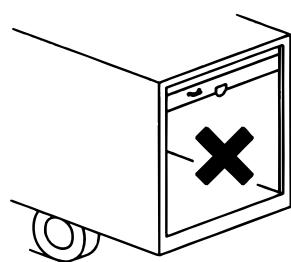
〈参考例〉



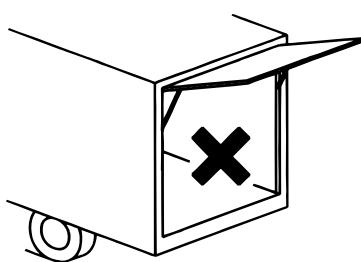
観音ドア



サイドドア



ロールアップドア



はね上げドア

こんなときには気をつけて

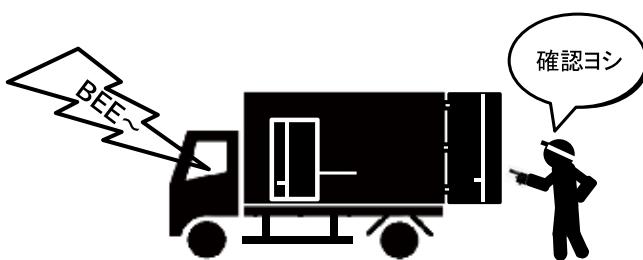
▲警告

車のホーン、ブザーが鳴り続けるときは、庫内に人が閉じ込められていないか、確認してください

車のホーン、ブザーが鳴り続けるときは、閉じ込み警報装置が働いている場合があります。

直ちにドアを開けて庫内を点検してください。

ボデー内へ人が閉じ込められると、中からドアを開けることができず、重大な事故につながります。

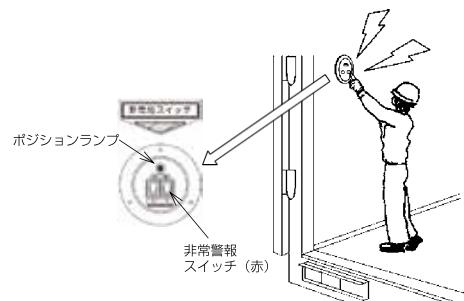


知識

ボデー内に閉じこめられたときは

1. 非常警報装置のある車両
非常用スイッチを押して運転室のブザーまたはホーンを鳴らし外部に知らせます。
2. 非常警報装置のない車両
音の出る積荷やドア・内壁を叩いたりして大声で知らせます。
3. 非常解錠装置付ドアの場合は救出を待たず自力で開けて外へ出てください。

車両が走行中は停車を待つ・ドアのみ開けて待つ、など実情に合せた安全を確かめながら対応してください。



非常用スイッチはボデー内左後方の赤色ポジションランプの下です。

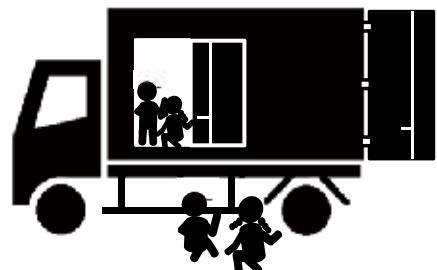


アドバイス

休車中の車両にも目配りを

休日や修理待ちなどで休車している車両についても置場や駐車ブレーキ・車輪止・施錠を確かめ安全に保管してください。

遊び場になると子供が遊戯中に転落したりボーダー内に閉込められたりして思わぬ事故を起こすことがあります。



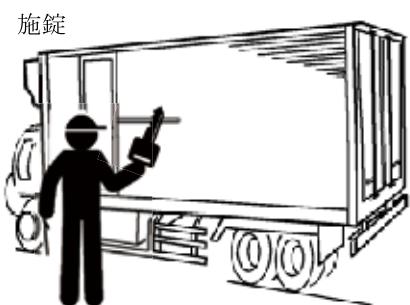
車から離れるときは

▲警告

ドアを施錠せず車から離れることの禁止

車から離れるときはドアに施錠してください。

盗難やいたずらの防止に役立ちます。



洗車するときは

▲注意

荷物を積んだまでの洗車注意

高压洗浄機などを使用する場合、思わぬところから水が侵入し、荷物をぬらすことがあります。洗車は荷降ろしのあと、空車の状態で行ってください。

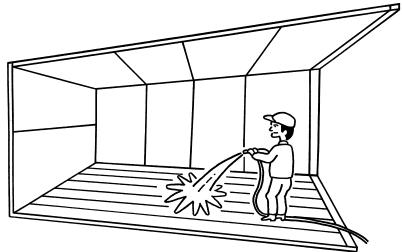


▲注意

庫内の水洗い禁止

防水対策の行われていない庫内の水洗いは行わないでください。

防水対策の行われていない庫内を濡らしますと、床板やその他の内張り材に反りや割れを発生させ又、床下の防水材の所に水が溜まり、金属のサビや床材の腐りを発生させる原因となります。



改造はしないで

▲警告

改造の禁止

自己流の改造や変造、部品の後付けはやめてください。

性能を損なったり、車両の保安基準から外れたり、故障や事故の原因になることがあります。

登録後の改造で無届けの車両は法律で使用を禁じられています。



コーチョンラベルの整備

▲注意

破損、不鮮明なラベルの使用注意

コーチョンラベルは、使用時、お守りいただきたい項目や、注意がかれています。

見にくくなつたラベルは、速やかに交換してください。

<例>

△ ドアロック時の注意



ドアをロックする時、庫内に人がいないことを確認して下さい。

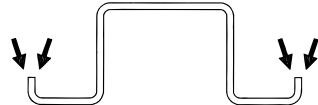
金属の切断部に注意

▲警告

金属の切断部による切り傷注意

ボウルーフなど金属の切断部に手でふれたり、滑らせると手を切ることがあります。

ボウルーフ
(天井の梁)



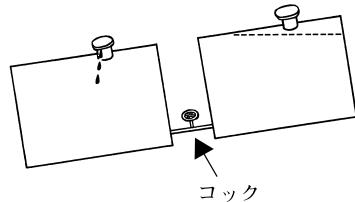
連結燃料タンクが満タンのときは

▲注意

連結燃料タンク満タン時の注意

燃料タンクが2個以上連結されている車両で、燃料が満タン時に坂道を走行中や、駐車中に片側のタンクから燃料が漏れことがあります。

この場合は、タンクの連結コックを閉じメインタンクの量が半分位になってからコックを開くことをお勧めします。



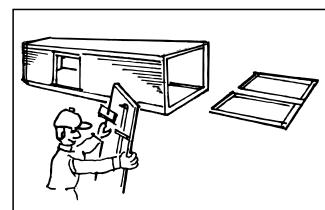
ボデーを破棄するときは

▲警告

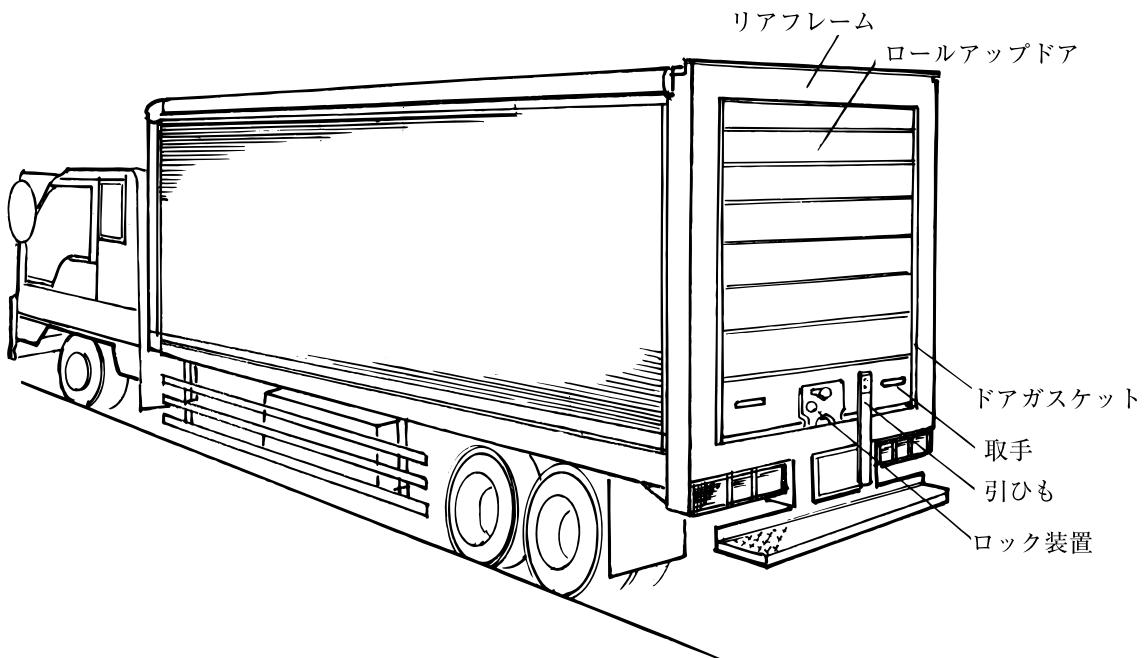
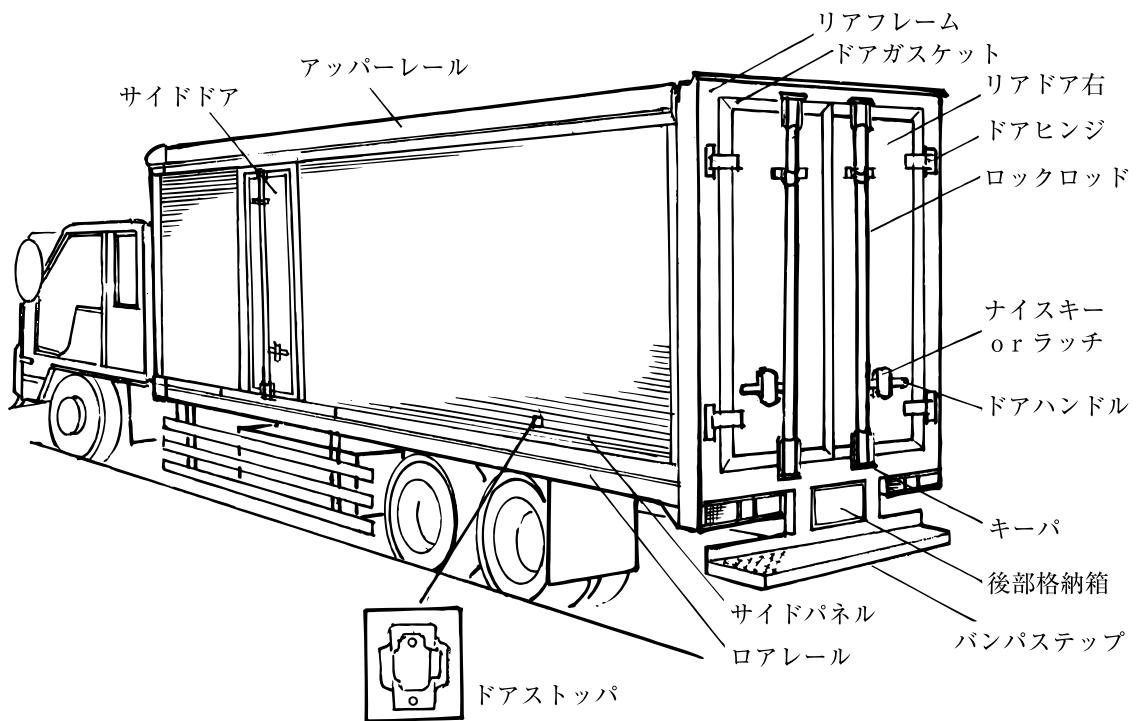
ドアなどを取り付けたままボデーを破棄することの禁止

破棄する場合はドアや突起物・鋭利な物は取外し、倒れないよう安全な状態にして置きましょう。

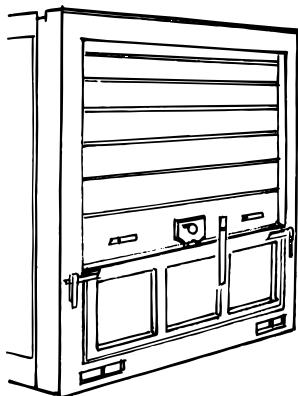
シャシから外したままにして置くと子供等が入って遊び場になり閉込められたり怪我をしたりする恐れがあります。



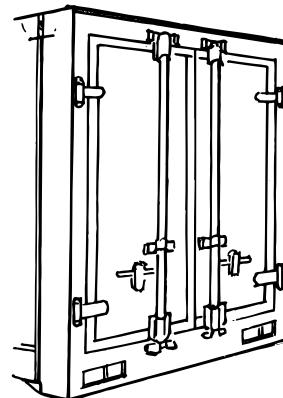
2. 各部の名称



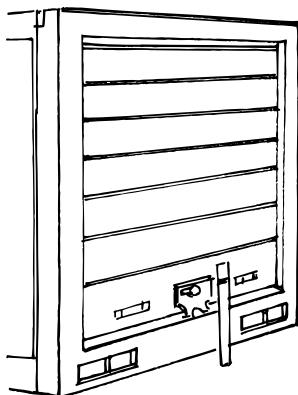
リアドア



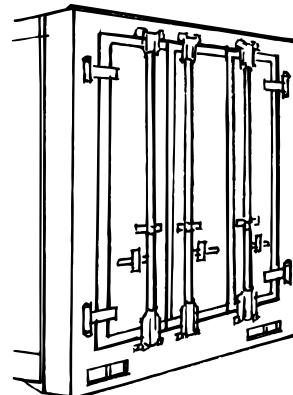
④



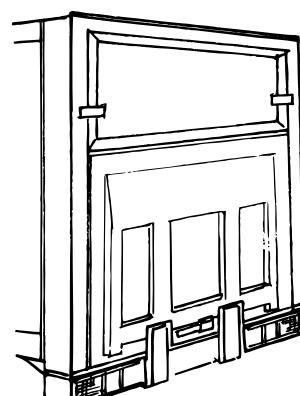
①



⑤



②



③

- ①観音ドア：両開……………22頁
- ②観音ドア：3枚開……………27頁
- ③はね上げドア……………37頁
- ④ロールアップドア：セミタイプ……………35頁
- ⑤ロールアップドア：フルタイプ……………31頁

3. ドアの開閉

1. リアドア

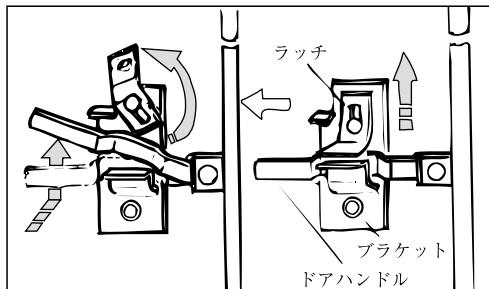
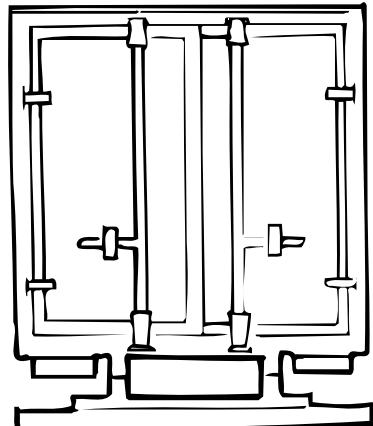
1. 観音ドア（両開タイプ）

リアの観音ドアは左から先に開けます。閉めるときは右から先に閉めてください。
なお、右から先に開ける仕様のものもあります。

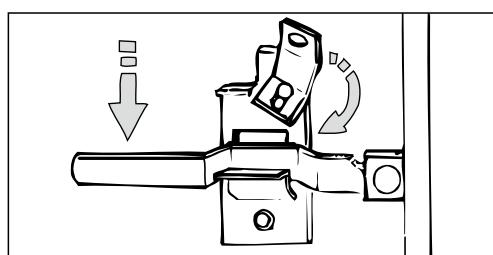
(1) ラッチ式

■開け方

- 1) ラッチをスライドさせながら上げ、下端部が上になるように回転させストップの位置で止めます。



- 2) ドアハンドルを握りドア方向へ押し込むながら上げると、ブラケットからハンドルが外れます。
- 3) ハンドルを回転させながら手前に引くと、ドアが開きます。
- 4) ドアを開けたらハンドルはブラケットに戻して置いてください。



知識

ハンドル及びラッチとブラケット
車型や仕様によって形状が少し異なる場合があります。

操作の方法は共通です。

▲注意

ドアハンドルの格納

使用後のハンドルはブラケットに戻してください。

戻さないでドアを全開するとボディー側面などにハンドルが当たり損傷させることができます。

■ドアの固定

ドアを開けたときはドアストッパで固定します。

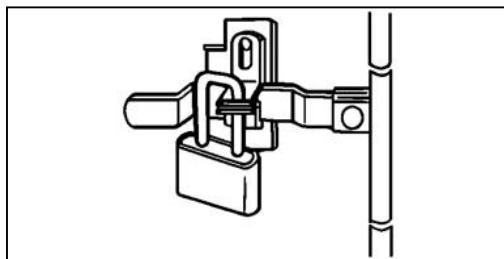
(ドアの固定方法・装置の使用方法は本章の1.3項(観音ドアの固定装置)を参照してください。)

■閉め方

開けたときの逆の手順で行います。

■施錠

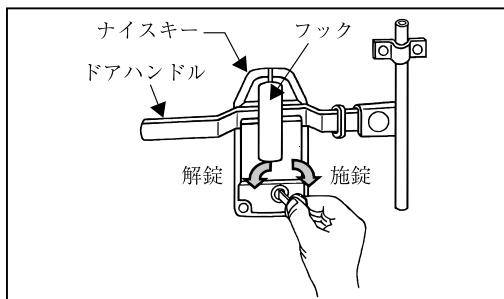
ラッチとブラケットの鍵穴を通して施錠します。市販の錠が使用できます。



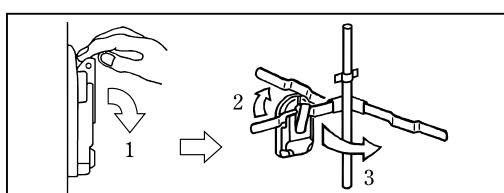
(2) ナイスキー (キー付き) 式

■開け方

1) キーをシリンドラ錠に差込み左に90度回転させると解錠できます。



2) キーを抜き取りナイスキーのフック上部を引くとドアのハンドルが開放されます。



▲注意

ドアの開放と固定

強風のときやドアを大きく開けるときは周辺の人・物・交通の状況に気を付けてください。

開けたドアは固定してください。

▲警告

ドアロック時の確認

ドアをロックするときはボディー内に人がいないことを確認してください。

万一、人が閉込められると危険です。

▲注意

施錠

車から離れるときはドアに必ず施錠してください。

いたずらや盗難予防になります。

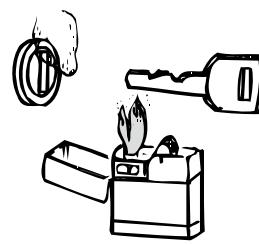
知識

ナイスキー

1. ナイスキー式にはキー無しのものもあります。施錠・解錠を除き操作は同じです。

2. 冬季凍結により解錠できないことがあります。

解かしてから操作してください。

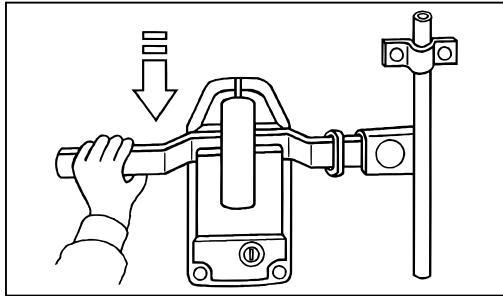


応急解凍の一例

やけどに注意

3) ハンドルを持ち上げて手前に引くとドアが開きます。

4) ドアを開けたらハンドルをナイスキーに戻し格納します。

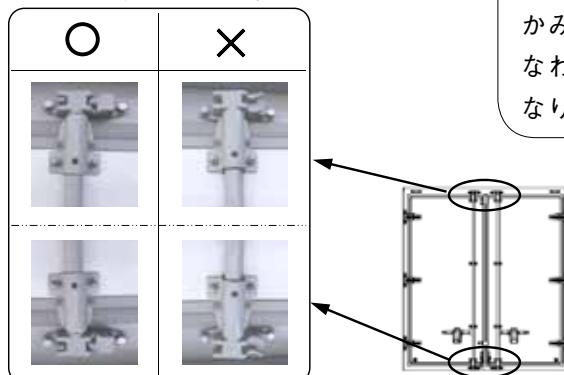


■ドアの固定

ドアを開けた時はドアストップで固定します。
(ドアの固定方法・装置の使用方法は本章の1.3項(観音ドアの固定装置)を参照してください。)

■閉め方

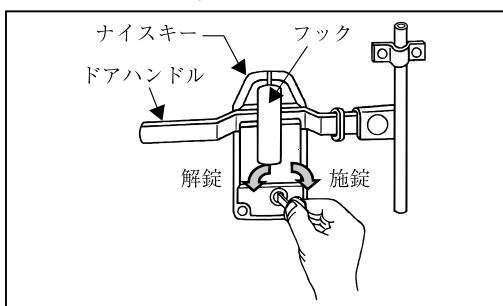
開けたときの逆の手順で行います。



※上記画像は左側を示す。

■施錠

キーをシリンダに差込み右に90度回転させると施錠されます。



▲ 注意

パネルの損傷

ドア開放後のハンドルはブラケットに戻してください。

戻さないでドアを全開にするとハンドルがサイドパネルに当たり損傷させることができます。

知識

ナイスキーの手入れ

鍵の作動不良を防止するために、定期的にキー差込み穴よりスプレー式鍵穴用ドライタイプ潤滑剤を注入してください。

▲ 注意

ドアが開いているときに、上下共カムとキーパーが確実にかみ合っていることを確認してください。
かみ合っていないと、密閉性が損なわれ塵や雨水等の侵入の原因となります。

▲ ドアロック時の注意



ドアをロックする時、庫内に人がいないことを確認して下さい。

▲ 注意

施錠

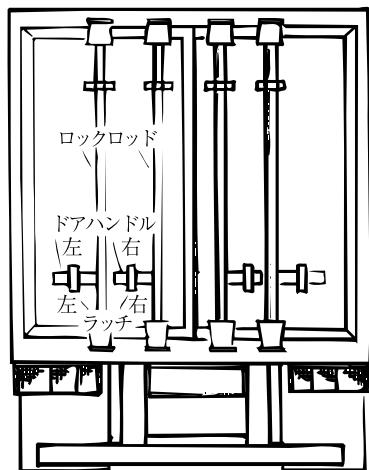
車から離れるときは必ず施錠してください。

いたずらや盗難予防になります。

(3) ダブルロックロッドラッチ式

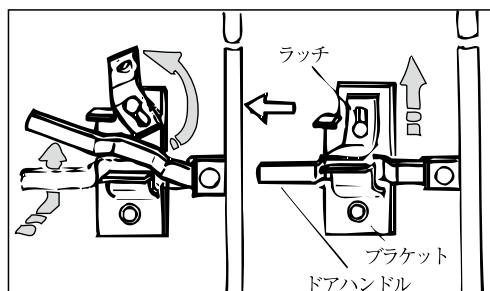
リアドアをロックするロッドがドアの片面に2本づつ装着されています。

ドア開閉用ハンドルを固定する金具はラッチです。



■開け方

- 1) 左側ドアの左ラッチを上方にスライドさせ下端部が上になるように回転させストップの位置で止めます。
- 2) 右のラッチも同様に操作します。



- 3) 左側ドアの左右のハンドルを左右の手で持ち同時操作をしてください。

- ドアハンドルを握りドア方向へ押し込みながら上げるとブラケットからハンドルが外れる。
- 次にハンドルを右方向に回転させながら手前に引き寄せドアロックを解除する。
- ハンドルを手前に引張りドアを開く。



知識

ハンドルの固定方法

ダブルロックロッドのハンドル固定方法にはナイスキー式のものもあります。

ナイスキーとハンドルの取扱は(前ページ2)項と同じです。

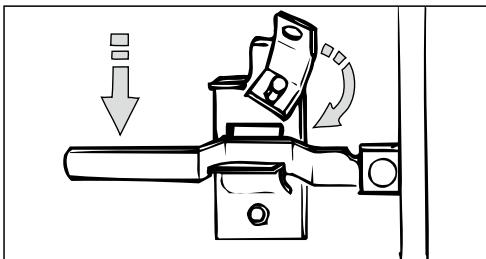
▲注意

ダブルロックロッドの ドアハンドル操作

ドア開閉時のハンドル操作は常に両手で同時操作をしてください。

ハンドルを片側づつ操作すると思いもよらない事故の原因になることがあります。

- 4) ドアを開けたらハンドルはブラケットに戻しセットして置いてください。



▲注意

ドアの開放と固定

ドアを全開したり強風時に操作する場合は周辺の人・物・交通の状況に気を付けてください。

開けたらドアストッパーで固定してください。

■ドアの固定

ドアを開けた時はドアストッパーで固定します。

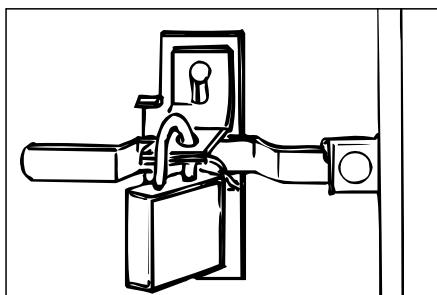
(ドアの固定方法・装置の使用方法は本章の1.3項(観音ドアの固定装置)を参照してください。)

■閉め方

開けたときの逆の手順で行います。

■施錠

ラッチとブラケットの鍵穴を通して施錠します。市販の錠が使用できます。



▲警告

ドアロック時の確認

ドアをロックするときはボディ内に人がいないことを確認してください。

万一閉込められると危険です。

▲注意

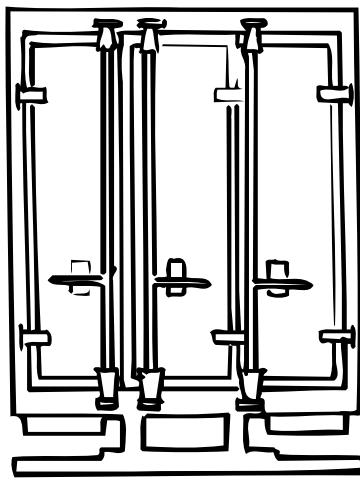
施錠

車から離れるときは施錠してください。

いたずらや盗難予防になります。

2. 観音ドア（3枚開タイプ）

このタイプのドアは3枚に分割されております。通常は中央のドア（センタドア）を使用します。ドアは右開きが普通ですが左開きのものもあります。取扱方法はどれも共通です。



■開け方

開け方は両開きタイプと基本的に同じです。

(1) センタドア

- 1) ドアは右側に開きます。開いたら必ずドアハンドルをナイスキーまたはブラケットに戻しセットします。
- 2) 次に右ドアの右下部にあるドアストッパにドアを固定してください。

(2) センタドア+右ドア（2枚開の場合）

- 1) 右ドアに固定したセンタドアを外します。
- 2) センタドアを押さえながら右ドアのハンドルを操作しドアロックを解除します。
- 3) センタドア+右ドアを静かに開いて270度回転させボディ右側のドアストッパに固定してください。

■ドアの固定

ドアを開けた時はドアストッパで固定します。（ドアの固定方法・装置の使用方法は本章の1.3項（観音ドアの固定装置）を参照してください。）

■閉め方

開けたときの逆順に準じて行います。

▲注意

ドアハンドルの格納

ドアを開けたらハンドルをナイスキーまたはブラケットに戻してください。

戻さないでドアを全開するとハンドルでドアやボディ側面を損傷させることができます。

知識

3枚ドアの使い方

積荷・荷姿・重量・荷扱いの人数などに合わせ適宜2枚・3枚開きにしてお使いになると荷扱いがスムーズに行えます。

▲注意

開けたら固定してください

センタドアは軽量です小さい力（風力・人力等）でも動いたり壊れたりします。

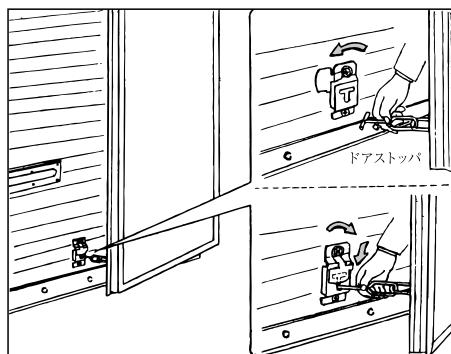
固定しないと挟まれたりドアやサイドのパネルを損傷することがあります。

3. 観音ドアの固定装置

リア両開・3枚開の各観音ドアを開けた場合の固定と操作の方法は次の通りです。

(1) 通常の固定

開けたドアを全開（270度回転）しボディ側面に取付けられているドアホールドバック（ドアストップ）に固定します。



(2) 半開時の固定

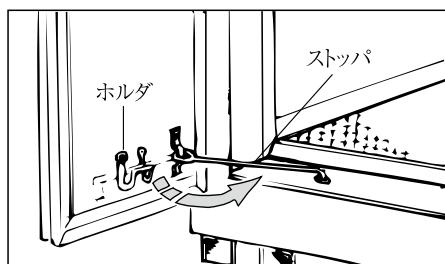
この装置は車の使用場所や荷役の都合等によりリアドアを半開（約90度開き）の状態で固定します。

1) 簡易型（タイプ1）

■ 使用と格納

ドアを開き内側のホルダに格納されているストップを外しドアフレーム側の受穴に差込み固定します。

使用後はホルダに格納してください。



知識

操作固定方法の説明

ドアの操作や固定方法は左側を基準にして説明してあります。

▲ 注意

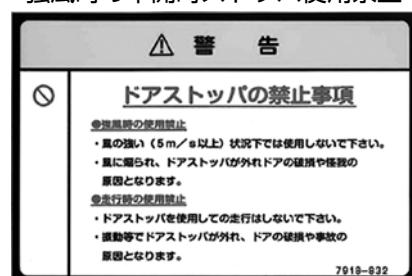
ドアハンドルの戻し

全てのドアハンドルはドアロックを解除後、元（解除前）の位置に戻してください。

ドアやボディ側面の損傷を防ぎます。

▲ 警告

強風時の半開時ストップ使用禁止



風力4以上のときはドアホールドバックをお使いください。

風力4とは

- ・砂埃が立つ
 - ・紙片が舞い上がる
 - ・小枝が動く
- } 状態です。

風力4以下でも突風には注意してください。



アドバイス

格納は確実に

ストップの格納はしっかりと行ってください。

しなかったり、外れたりするとドアが閉まらない場合があります。

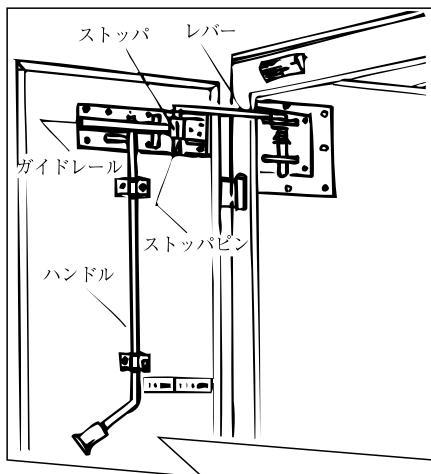
2) ハンドル型（タイプ2）

■使用方法

ハンドル型のドアストップはハンドルの切換え操作によりドアの開閉を90度開と全開（270度開）にすることができます。

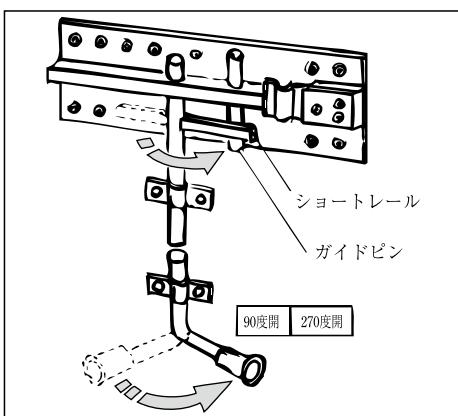
■90度で開閉する場合

ハンドルを左に倒したまま開閉します。



■全開（270度開）にする場合

- ドアを開ける。
- すぐに（開角度45度以内）ハンドルを右に切換える。
- ドアを引続き開けて全開にする。
- ドアストップで固定する。



■閉め方

ドアストップを外しそのまま閉めます。

▲注意

ハンドル型の使用方法（固定）

次のどちらかにしてお使いください

1. 90度開放後にハンドルを右に切換えてドアを固定してください。
2. 全開にして側面のストップをお使いください。



知識

ドア全開：ハンドル型

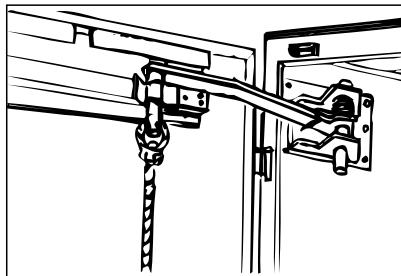
ドアを全開にするもう一つの方法（90度開で使用中→全開に）

ドアを45度以上閉→ハンドルを右に切換→ドア反転→開方向へ→全開にする→ドアストップに固定する。

3) ノッチ型（タイプ3）

■ 使用方法

この装置が取付けられているドアは通常90度の開閉で使用します。



知識

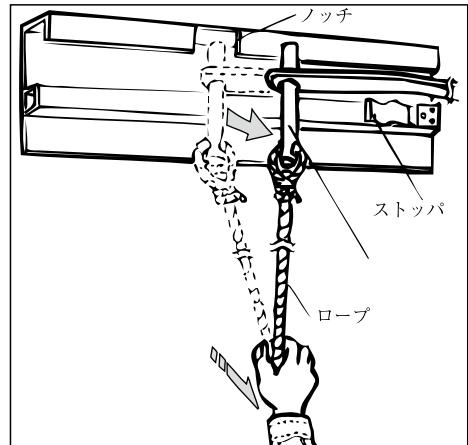
ノッチ型のドア開閉

このドアを90度開きで使用する場合は特別の操作は不要です。

ドアを開くと90度で止まります。

■ 全開（270度開）にする場合は

- ドアを閉じた状態から45度開きにする。
- ストップピンをノッチに合せロープを引く。
- ストップピンをノッチから外す。
- ドアを外側に開きロープを離す。
- ボデー側面のドアストップに固定する。



■ 閉じ方

全開方法の逆の手順で行います。

4. ロールアップドア

ドライバンのロールアップドアには次のタイプがあります。

A. フルタイプ：ワンタッチロック式

通称：ワンタッチロック

ドア開口部の全てがロールアップするタイプでロック装置はワンタッチ式です。

B. フルタイプ：鎌錠ロック式

通称：鎌錠ロック

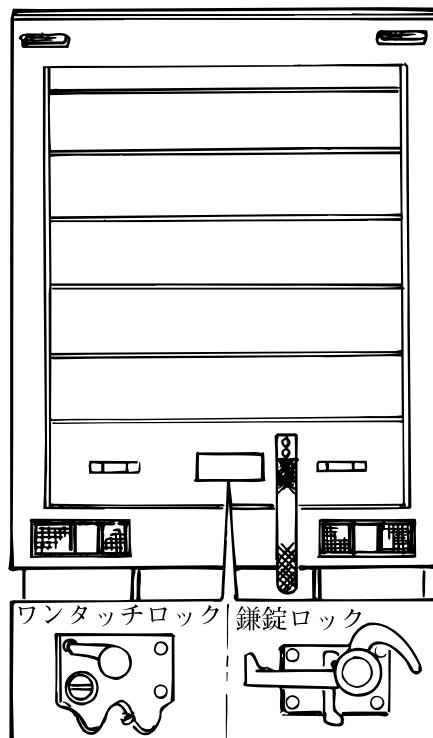
ドア開口部の全てがロールアップするタイプでロック装置には鎌錠が使われています。

C. セミタイプ：ワンタッチロック式

通称：セミタイプorバッタリ

ドアの開口部には一般的に使われている平ボディーのリアアオリとロールアップドアを組合せて用いてあります。

ロック装置はワンタッチ式です。



▲注意

キーを抜取ってください

キーを付けたままロールアップドアを昇降させないでください。

ドアフレームに当たり損傷することがあります。

▲注意

ドアを開けたまま走行しないでください

スプリング、ケーブルなどの破損、各部の早期故障の原因になります。

▲警告

ドアロック時の確認

ドアをロックするときはボデー内に人がいないことを確認してください。

萬一人が閉込められると、危険です。

知識

セミタイプの鎌錠式

仕様によりセミタイプに鎌錠ロック式が装置されることがあります。

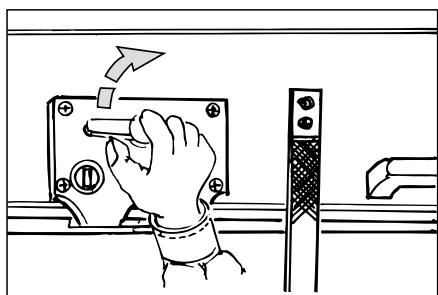
操作法はフルタイプと同じです。

(1) フルタイプ：ワンタッチロック式

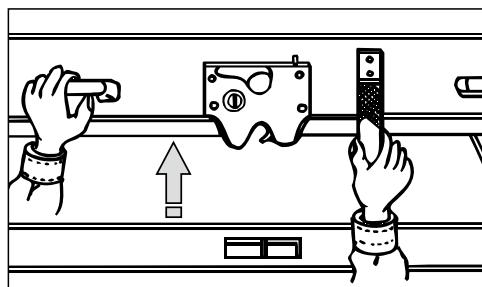
このタイプのロールアップドアはロックを解除すると自動的に上昇し完全に閉じると自動的にロックされます。

■開け方

- 1) ロック装置のシリンダ錠にキーを差込み右に90度回転させ解錠します。
- 2) キーを抜取り取手を押さえドア開放の「ツマミ」を右に回すとドアロックが解除されドアが上昇し始めます。

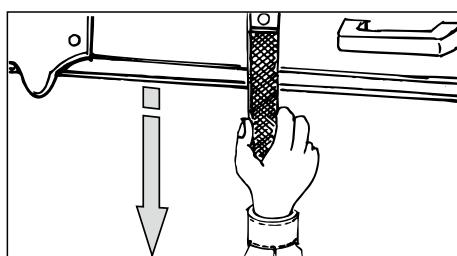


- 3) 引続き取手を押さえ引ひもを握り静かにドアを上昇させて全開します。



■閉め方

- 1) 引ひもを持ちドアを引下ろします。



アドバイス

しっかり押えて

ワンタッチタイプのロールアップドア巻上力は「初期強め」に設定しています。

ドアを開けるときは取手を強く下へ押さえ込む位にしてロックを開放します。

▲注意

静かに開けてください

ロールアップドアを勢いよく開放しないでください。

ドーケーブルが乱巻きになり開閉が不具合になります。

アドバイス

ワンタッチロックの爪

ワンタッチロックの爪が繰り返しの使用によって変形してくることがあります。

動きが渋くなったときは、フルハーフの各支店までご連絡ください。また、ふだんの給脂が故障防止に有効です。

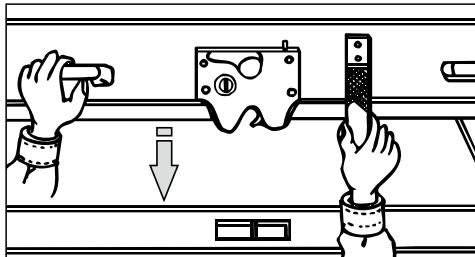
アドバイス

引ひものかみ込み

引ひもがロックの爪部分にかみ込まれないようにしましょう。

かみ込まれるとロック装置故障の原因になります。

2) 取手を持ち完全に閉じるまでドアを押下げると自動的にロックされます。



■施錠

キーをシリンドルに差込み左に90度回転させると施錠できます。

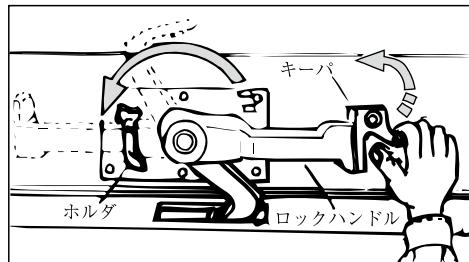
(2) フルタイプ：鎌錠ロック式

鎌錠ロック装置の付いているロールアップドアはドアロックを解除して押上げて開きます。またドアを閉めた後のロックは手動で行います。

■開け方

1) キーパを押上げ90度左へ回転させます。

2) ロックハンドルを持上げ左へ180度回転させるとドアのロックが解除されます。



3) ハンドルはホルダにロックされます。

4) 取手を持ち押上げてドアを開きます。

▲注意

飛降りないで

引きひもを持って床面やバンパから飛降りないでください。

引きひもが切れたり思わぬ怪我の原因になります。

▲注意

ドアロック操作時の注意

ロールアップドアロック時インジケータが突出していないことを確認の上、走行してください。

インジケータが突出している場合は、半ロック状態です。再度ドアを閉め直してください。半ロックで走行しますとドアが開き大変危険です。



▲注意

回転部に気をつけて

鎌錠ロック装置は回転部が多くあります。

手・指等を挟まれないようにしましょう。

▲注意

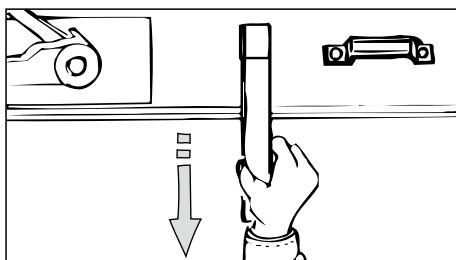
ドアを押上げる前に

ロックハンドルがホルダにロックされているか確かめてください。

ホルダにロックしないでドアを上げるとハンドルでルーフを損傷したりドアが閉まらなくなることがあります。

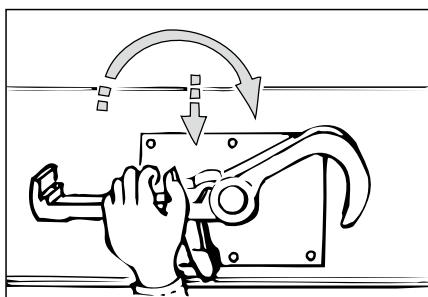
■閉め方

- 1)引ひもを持ち、ドアを引下ろしながら取手に持替えて閉めます。



- 2)ロックハンドルの内側にあるホルダを押下げホルダのロックを外します。

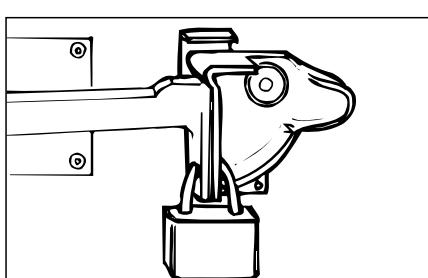
- 3)ハンドルを180度右に回転させるとドアがロックされます。



- 4)キーパを左下へ回転させながら降ろしハンドルのテールに合わせます。

■施錠

ハンドルのテールとキーパ下部に錠前用の穴があり市販の錠が使用できます。



▲注意

飛降りないで

引きひもを持って床面やバンパから飛降りないでください。

引きひもが切れたり思わぬ怪我の原因になります。



アドバイス

ロックの確認

ハンドルとキーパの鍵取付用の穴位置が合っていますか？

合っていれば正しくロックされています。



アドバイス

引ひもの交換

引ひもが切れるとドアの引下ろしが大変になります。

引ひもが切れ始めましたら交換することをお勧めします。

▲注意

鍵を掛けてください

車を使用しないときや離れるときはいつも施錠しましょう。

盗難やいたずらの防止に役立ちます。

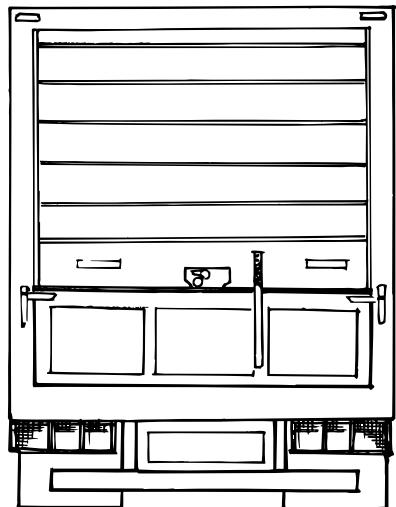
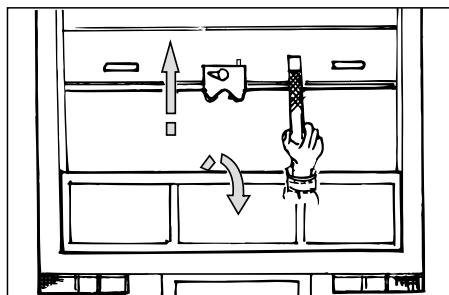
(3) セミタイプ：ワンタッチロック式

このドアはロールアップドアとアオリの組合せ式になっています。

■開け方

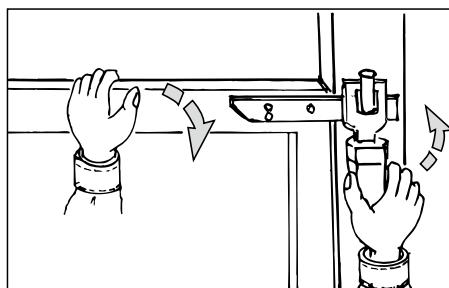
ロールアップドアを先に開け次にアオリを開けます。

1) ロールアップドア部分の取扱は、フルタイプ（30頁参照）と同じです。

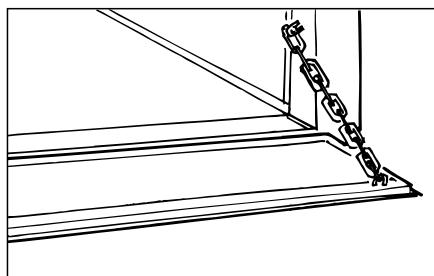


2) リアアオリ

左右のエビカンを外しアオリの上部をもってゆっくり手前に倒しアオリを開きます。



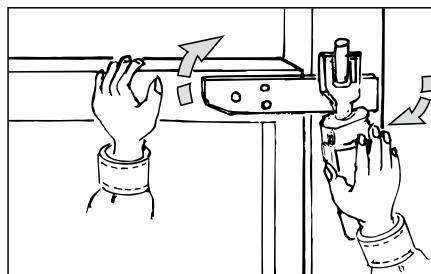
3) 開いた煽はチェーンで水平に保持できます。



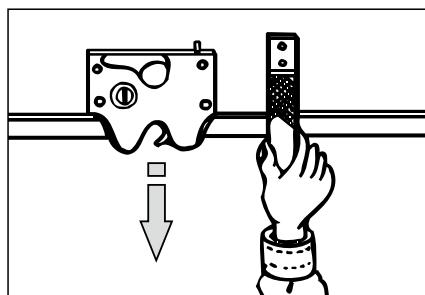
■閉じ方

アオリ部分を先に閉めてからロールアップドアを閉めます。

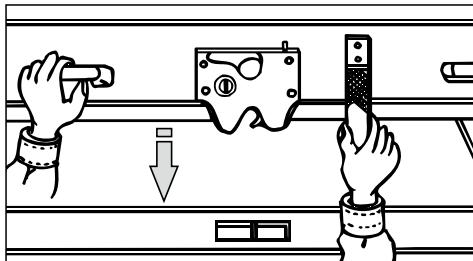
1) アオリは開けたときの逆の手順で閉じます。



2) 次にロールアップドアの引ひもを持って引下ろします。



3) ドアロックの仕方はフルタイプと同じです。



■施錠

フルタイプと同じ方法で行います。

▲注意

アオリのロック方法

アオリをエビカンでロックするときは手のひらで押してください。

エビカンを握って操作すると指が挟まれることがあります。

△ ロックする時の注意



ロックする時
ハンドルを手のひらで
押して下さい。



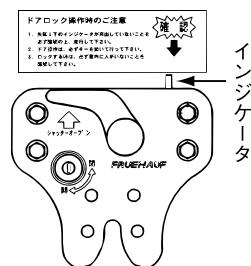
ハンドルを握って
操作すると指をはさま
場合があります。

(アオリ仕様のみ)

▲注意

ドアロック操作時の注意

ロールアップドアロック時インジケータが突出していないことを確認の上、走行してください。
インジケータが突出している場合は、半ロック状態です。再度ドアを閉め直してください。
半ロックで走行しますとドアが開き大変危険です。



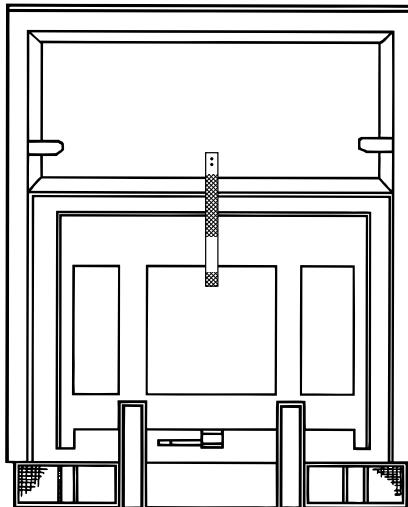
アドバイス

チェーンのからみ

アオリを閉めるときチェーンがからむとドアが閉まらなくなります。

5. はね上げドア

はね上げドアは、フルゲートリフタとドアを組み合わせてあり、ドア部にはガスダンパを用いて開閉をしやすくしてあります。

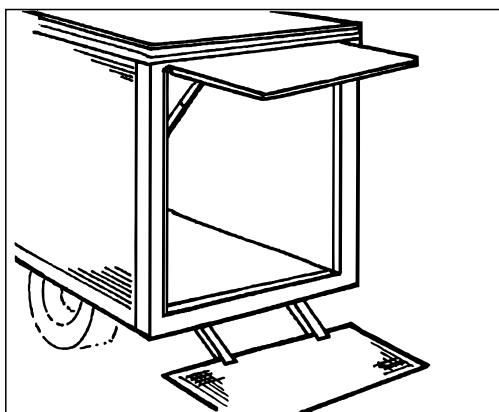


■開け方

1) フルゲートリフタのグランドプレートを先に開けます。

フルゲートリフタの取扱については別冊「取扱説明書」をご参照ください。

2) ドアの下端部を持ち静かに上方に開きます。



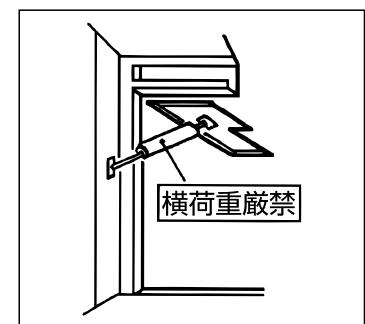
■閉じ方

ドアの端部、または引きひもを持ち静かに引き下げて閉じます。

▲注意

ガスダンパとドア

1. ガスダンパには荷物などをぶつけないでください。
2. ガスダンパに横荷重が掛かるとガス漏れのため、反力がなくなります。
3. ドアを開けるときは手で押さえ、または引ひもを用い静かに上げてください。



▲知識

ガスダンパの反力低下

冬季はガス圧が低下してドアを開放したとき少し下がることがあります。が故障ではありません。

▲注意

ドアを開放したままの走行

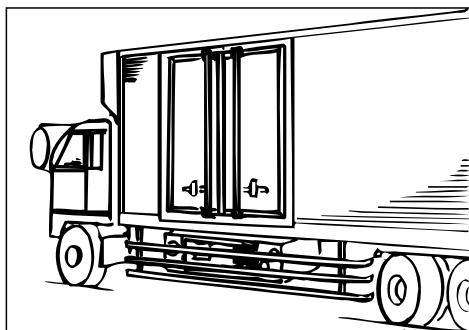
フルゲートリフタのみを閉じドアを開放したままで車を走行させないでください。

2. サイドドア

サイド荷役を行うときはサイドドアが便利です。ドライバンのサイドドアは、両開・片開・スライド（引戸）開きの各タイプがあります。

1. 観音両開タイプのサイドドア

ボデーのサイドにリアの観音ドア同じ形状のものを装備しサイドドアとしたものです。

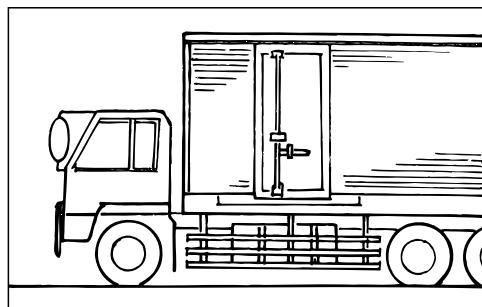


■操作取扱

リアドアに準じた操作取扱となります。
(但し90度開閉装置はありません)

2. 観音片開タイプのサイドドア

リアの観音ドアの片側ドアと同じ形状のものをサイドドアとして装備したものです。



■操作取扱

リアドアに準じた操作取扱となります。

▲注意

開けたら固定

1. ドア開放後のハンドルはブロック解除に戻してください。
2. ドアを開けたらストッパーに固定してください。

固定されていないと風や通過車両に煽られてキャブやボデー・人に当り損傷の原因になります。

▲警告

ドアロック時の確認

ドアをロックするときはボデー内に人がいないことを確認してください。

萬一人が閉じ込められると危険です。

知識

ダブルロッククロッドタイプのサイドドア

ドア1枚に2本のロックロッドを装着したサイドドアの操作取扱は観音ドアの操作取扱要領24~25頁に準じます。

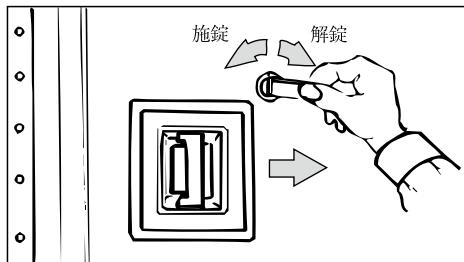
3. スライド開のサイドドア

ワンタッチタイプとNFタイプがあります。

(1) ワンタッチタイプ

■解錠と施錠

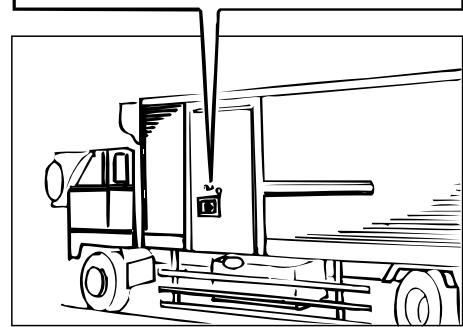
キーをシリンドラ錠に差込み、ドアを開く方向に回すと解錠、閉める方向に回すと施錠できます。



左ドア 後開き

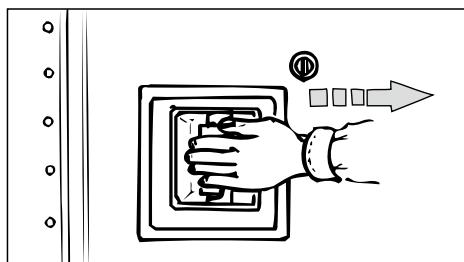
▲ 半ドア注意

半ドア状態ではガタが有り
ドアが開く恐れがあります。
また水の侵入の原因となり
ますのでドアは確実に閉め
てください。



■開け方

- 1) 解錠したらキーを抜取ります。
- 2) ハンドルを握りドアを開方向へ引きます。(ドアロックが解除されます)
- 3) ストップが掛かる位置までドアを全開にしてください。



▲注意

全開にしてください

全開にすると自動的にストップが
掛かります。

ストップが掛からないとドアが逆
走し挟まれることがあります。

▲注意

サイドドアの施錠もお忘れなく

車から離れるときはサイドドアに
も施錠してください。

いたずらや盗難を防ぎます。

■閉じ方

- 1) ハンドルを握りドアを閉方向へ引きます。(ストップが外れます)
- 2) ドア閉めは少し強めにします。
- 3) ドアが完全に閉まればロックが掛かります。

▲注意

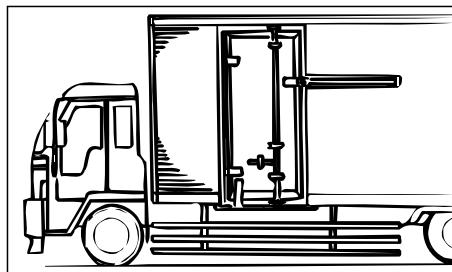
開閉はハンドルで

スライドドアの開閉はハンドルを
持って行ってください。

ドア本体を持つと巻込まれて怪我
をすることがあります。

(2) NFタイプ

NFタイプのサイドドアはロックロッド式のスライドドアです。
ドア閉めの確実性・堅牢性等に優れています。



▲注意

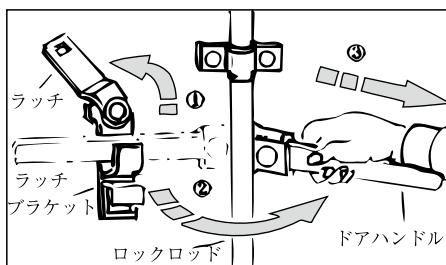
開閉はロックロッドとハンドルで

NFスライドの開閉はロックロッドとハンドルを持って行ってください。

ドア本体を持つと巻込まれて怪我をすることがあります。

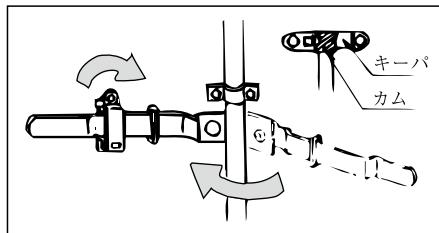
■開け方

- 1) ラッチを上部方向へ回します。
- 2) ブラケットからドアハンドルを外し回転させながら手前に持ってきます。
- 3) ハンドルを手前からボデー側に倒しリアドア方向へ引くとドアが開きます。



■閉め方

- 1) ロックロッドを持ち運転台方向へドアをスライドさせて閉めます。
- 2) ブラケットに収めてあるハンドルを外します。
- 3) 上下のカムとキーパのかみ合いを確かめハンドルを回しドアをロックします。
※注意：確認を怠ると上部の隙間から雨水侵入の原因になります。
- 4) ロック後のハンドルはブラケットに戻して固定します。



■施錠

市販の錠を取付けられます。

スライドドアの倒れ込みについて

開けるときに、ロックハンドルを手前に引きながらスライドさせると、ドア面体がボデー側に倒れ込んだ状態になることがあります。これはリンク機構を用いているためで、異常ではありません。

アドバイス

ドア開閉中の不円滑

ドアが渋くなったりつかえたりしたらハンドルを取り出し前後に回転させたりドアを小刻みに動かしたりしながら開閉してください。

4. 非常用装置

ドライバンの非常用装置には警報装置と解錠装置があります。

1. 非常警報装置

この装置は、万一ボデー内に閉込められた場合に内部から運転室の非常ブザーまたは車のホーンを鳴らし外部に知らせる装置です。

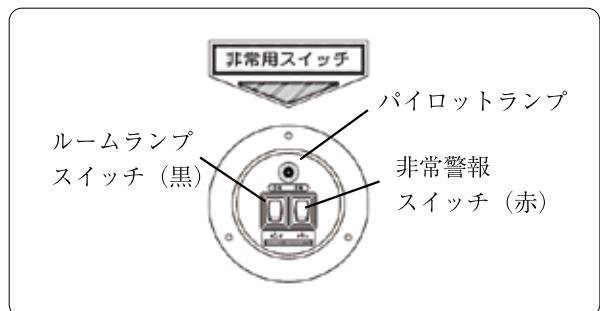
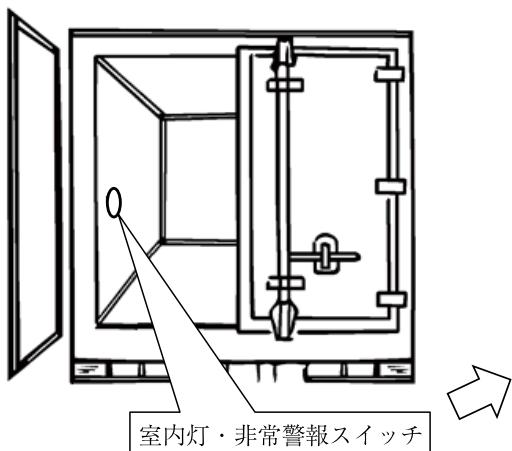
1. 非常警報の鳴らし方

非常用スイッチ（赤）の上側を押して“ON”で鳴り続けます。

2. 非常警報の解除

“ON”状態（鳴り続いている）にあるときにスイッチの下側を押します。

非常警報用スイッチの取付位置	ボデー内左側後方にあります。
----------------	----------------



アドバイス

非常用装置を確かめてください

万一のこともあります。非常用の各装置は予め操作法・取付位置を習得・確認しておいてください。

▲警告

非常警報（ブザー・ホーン）

万一ボデー内に閉込められた場合は非常用スイッチを押して警報（ブザー・ホーン）を鳴らし庫外に知らせます。

知識

非常用スイッチON-OFF

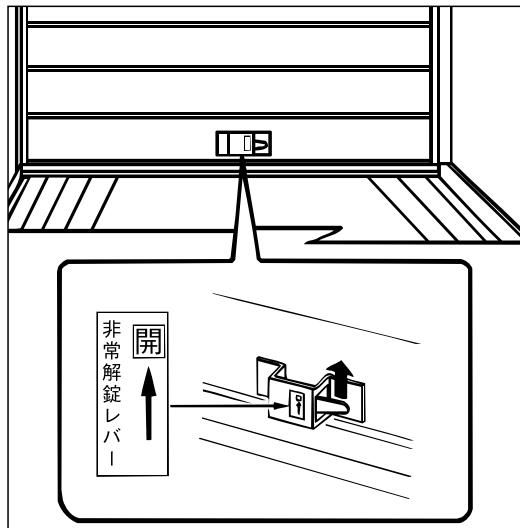
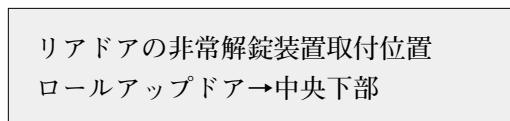
非常用ブザー・ホーンはスイッチを切らないかぎり鳴り続けます。

2. 非常解錠装置

非常解錠装置は、万一ボデー内に閉込められた場合、内部からドアを開けて脱出する装置でリアおよびサイドの各ドアに装備されます。

1. 非常解錠装置がリアドアに装備される型式等

ワンタッチロック付きのロールアップドアを装着したドライバンに装備されています。



ロールアップドア

■非常時の開け方 (非常解錠)

- 室内灯を点灯して装置を確認する。
- 装置右側の切欠穴のレバーを上げる。
- レバーを上げるとドアが上昇を始める。
- ドアを開け外へ出る。

▲警告

非常時の解錠 (非常解錠装置取付車のみ)

万一ボデー内に閉込められた場合は警報を鳴らすと共に非常用の解錠装置でドアを開け外に出てください。

※車両が走行中の場合は停車を待ち、安全に十分配慮してドアのみ開ける等実状に合わせ対応してください。

■知識

積荷とドアパネル

非常解錠してドアを開けるとき積荷がドアパネルに干渉していると開かないことがあります。

2. 非常解錠装置がサイドドアに装備される型式等

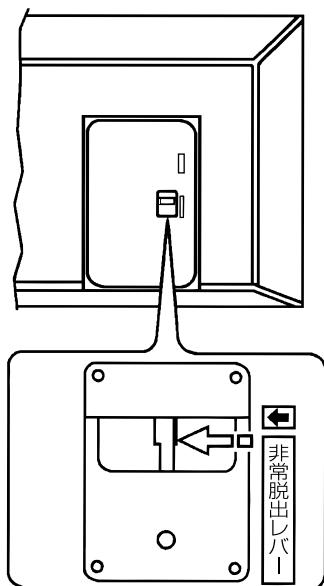
ワンタッチロック付きのスライドドアを装着したバンに装備されます。

サイドドアの非常解錠装置取付位置
ワンタッチスライドドア→中央端部

ワンタッチサイドスライドドア

■非常時の開け方（非常解錠）

- 室内灯を点灯して装置を確認する。
- ドア内側にあるレバーを矢印の方向に押しロックを解除後取手を持ちドアを開ける。
- 外へ出る。



ワンタッチスライドドア
非常解錠装置

アドバイス

非常用装置を確かめてください

万一のこともあります。サイドドアの非常解錠装置は予め操作法・取付位置を習得・確認しておいてください。

積荷の状態によっては手が届かず室内灯が点灯できないこともあります。

▲警告

非常時の対応

（非常解錠装置取付車のみ）

万ーサイドドア周辺に閉込められた場合は積荷の状態で室内点灯・警報ができないことがあります。

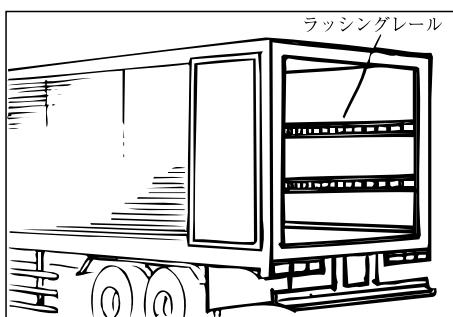
直ちに非常用の解錠装置でドアを開け外に出てください。

※車両が走行中の場合は停車を待ち、安全に十分配慮してドアのみ開ける等実状に合わせて対応してください。

5. 緊締装置

1. ラッシングレール

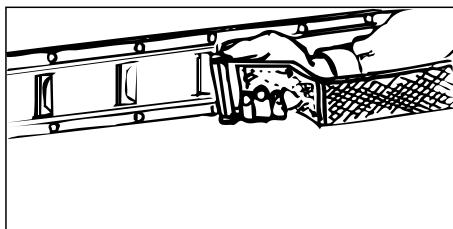
緊締装置の基本的システムでラッシングベルトや角型ビームとの併用で積荷を固定します。



2. ラッシングベルト

■掛け方

ベルトの端末金具のツメを押さえ金具の上部をレールに掛け次に下側を掛けます。



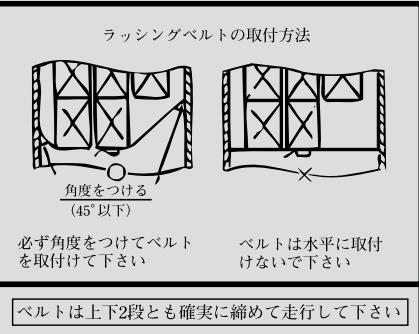
■外し方

掛けたときの逆の手順で行います。

▲注意

ラッシングベルトの使い方

1. 取付方法



2. 締付け

ラッシングベルトの締付力は200kgf以下にしてください。

3. ベルト掛け禁止の箇所

サイドドア部にあるラッシングレールにはベルトを掛けないでください。

3項ではベルトを除きビーム類の使用が可能です。

アドバイス

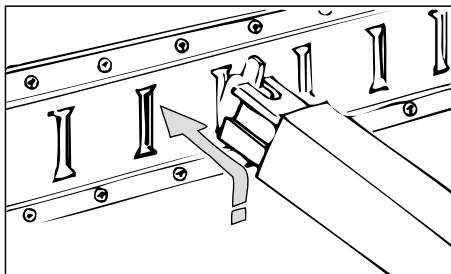
ベルトの取付確認

ラッシングベルトを掛けたら手で引いてベルトに緩みがないかを確かめてください。

3. 角型ビーム

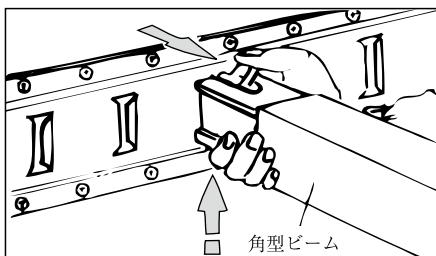
■掛け方

- (1) 角型ビーム端末金具の下側をラッシングレールに掛けます。
- (2) ビームを水平に上げながら押込むと固定できます。



■外し方

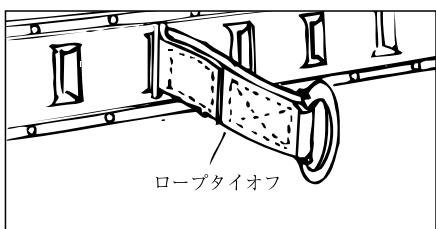
端末金具のツメを押さえ角型ビームを上げながら端末を手前に引くと外れます。



4. 端末金具

1. ロープタイオフ

ラッシングレールに取付けロープ使用時に用います。



知識

角型ビームの用途

角型ビームは簡易2段床・カゴ車・ダンボール・定型貨物の固定に適しています。

▲注意

手指を挟まないように

角型ビームの脱着時などに手指を挟まないようにしてください。

知識

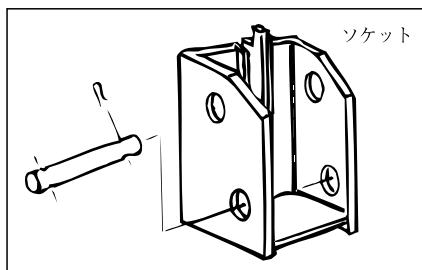
ロープタイオフの使用数

1. ロープタイオフはボディの大きさにより6~18個位の使用数が便利です。

2. ロープタイオフを使用しないときはレールに付置きができます。

2. ソケット

左右のラッシングレールに取付け、角材を渡して角型ビームと同様に使います。



知識

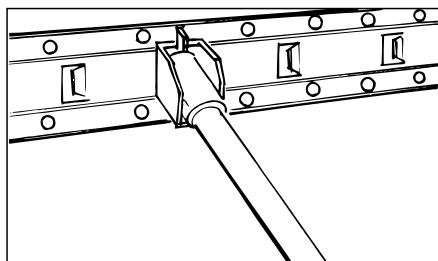
ソケットの用途

ソケットは通常単体では使用しません。角材との組合せで使うことが多く、角型ビームと同様の用途に向きます。

5. ラッシングビーム

1. ハンガータイプ

洋服類をハンガーに掛けたまま運ぶ場合に適した装置です。

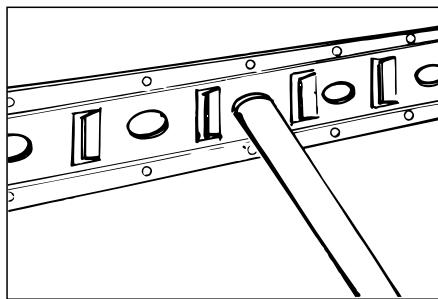


■脱着

バーとソケットで行います。

2. ショーリングバー

角型ビームやラッシングビーム（ハンガータイプ）に準じた用途用法があります。ラッシングレールの丸穴を使用します。



■脱着

バーの端部を丸穴に差込み本体を端部方向に押込みながらもう片方の端部を平行するラッシングレールの丸穴に合わせて入れる。取外しは逆の手順で行います。

6. フック

床面や側面に埋込まれて取付けられているフックです。

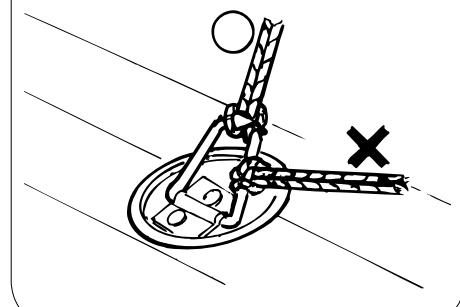
荷崩れ防止のためロープなどで積荷を固定するときに使用します。

表示されている許容引張強度の範囲内でお使いください。

アドバイス

フックの使用方法

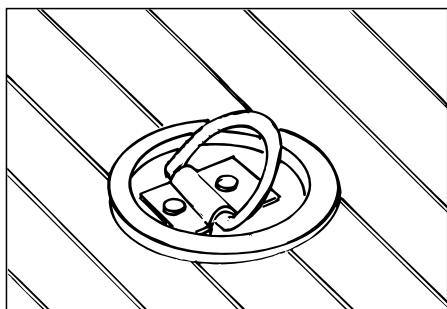
床面、側面共に横方向にロープを引出さないでください。



1. 床面埋込フック

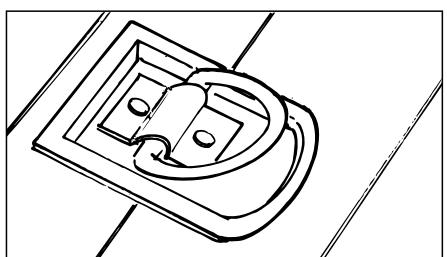
丸カン丸皿型と馬蹄型フックは床面に取付けられています。

(1) 丸カン丸皿型



許容引張強度：500kgf

(2) 馬蹄型



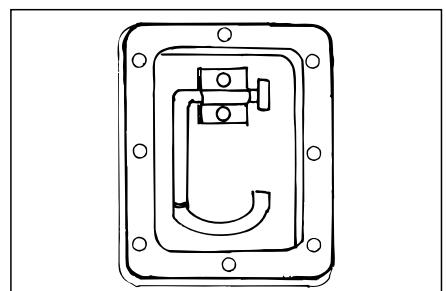
許容引張強度：500kgf

2. 側面埋込フック

(フロント・サイド)

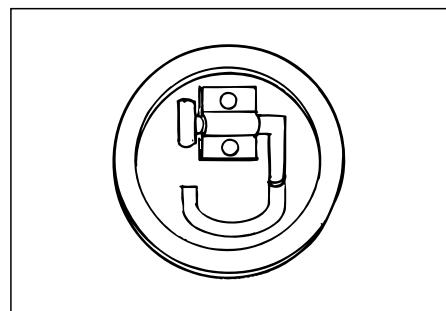
C型角皿・C型丸皿フックはフロント壁面とサイド壁面に取付けされています。

(1) C型角皿：フロント



許容引張強度：100kgf

(2) C型丸皿：サイド



許容引張強度：100kgf

6. 床搬送装置

バンボデーの内部でパレットや定型貨物の荷役をスムーズに行う装置で手動式のものと動力式のものがあります。

床搬送装置や機器をお使いになる場合は、地盤のしっかりした平らなところでお使いください。

知識

床搬送装置

1. 手動式

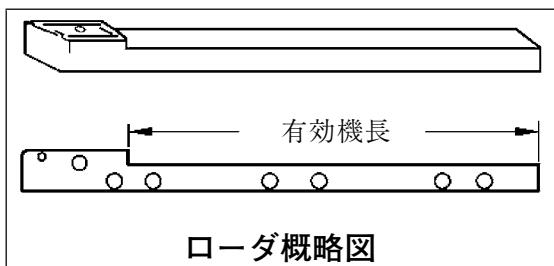
2. 動力式

- (1) 油圧
- (2) エアー
- (3) 電力

を利用したものなどがあります。

1. 手動式（ローダ）

ボデー内に通常2列又は4列のレールを敷設し、そのレール内をローラ付きの細長い台車状運搬具にパレット化した積荷を載せて、人力で移動させる装置です。

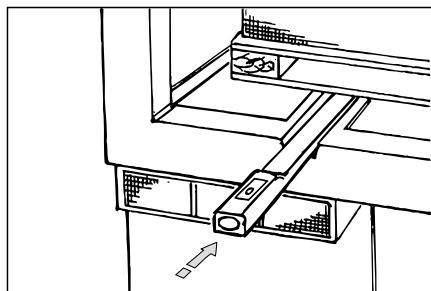


(1) ローダ

■代表的な使い方

1)積荷の位置とローダ

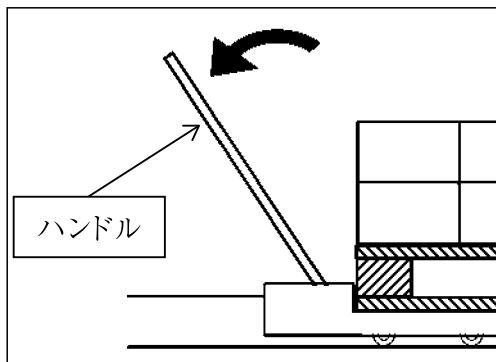
荷物を2本のレールに均等に掛けて積込みます。次にローダを左右のレールに差し込みローダのヘッドが積荷に当たるまで前進させます。



2)操作

左右のローダにハンドルを差込み2本共に手前に倒してください。

これで積荷が移動できる状態になります。



3)積荷の移動

積荷を移動させる前に荷物の状態を点検し荷崩れに気を付けましょう。移動は積荷を手押しで行います。

アドバイス

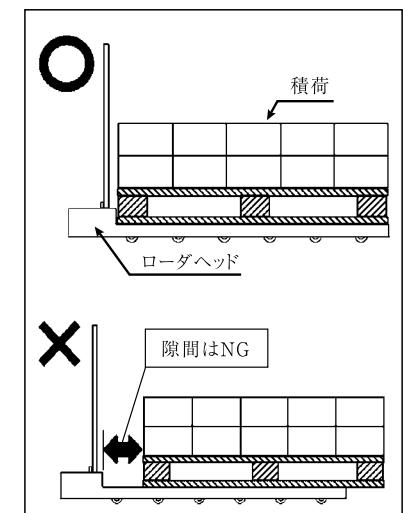
パレットの積込

レールと直角で端部を壁面と平行に置くと荷物や側壁との接触がなくスムーズに移動できます。

▲注意

ローダヘッドと積荷の隙間無いように

ローダヘッドと積荷の間が開いた状態でリフトしないでください。
(ローダヘッドと積荷が当たるよう)



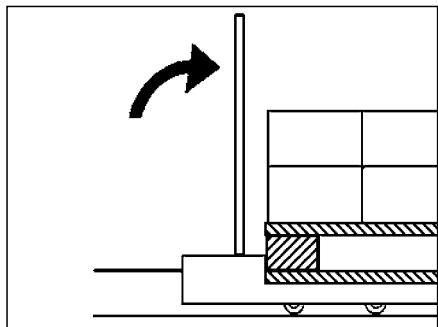
▲警告

床搬送装置・機器の使用

1. 車両を水平に保ち、地盤の堅固な所で行ってください。
2. 積荷のコントロールができるよう(ロープ・ウィンチ等)にしておきます。
3. 荷扱いに必要な人数で行ってください。

4)荷役終了後のローダの取出

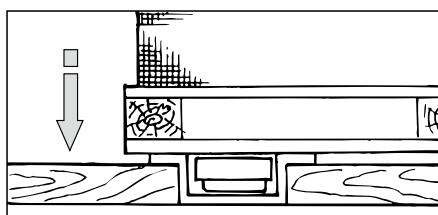
左右のハンドルを垂直に立てるとローダの負荷が解かれて抜出せます。



○ローダの無負荷状態

ローラー部が概略10~20mm位下って本体のなかに入ります。

これによりローダーの差込・抜取・一時休止等が出来ます。

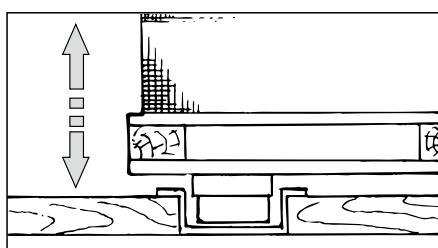


○ローダの負荷状態

ローラー部が概略10~20mm位本体より突出します。

これにより

ローダーのみの移動・積載移動・等が出来ます。



5)荷役終了後の格納

荷役が終了した後は後部格納箱など所定の場所に収納します。

アドバイス

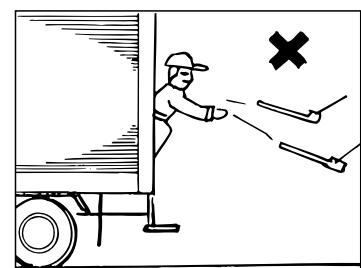
レールとローダの清掃

1. レールとローダはいつも清掃をしておきましょう。
2. 荷物移動方向にじゃまになる物がないようにしておきましょう。

▲注意

ローダの取扱

1. いかなる場合でもハンドルの押引でローダを移動させないでください。
2. ローダが急停止をしても荷崩れしないように積込んでください。
3. ローダは投げないでください。



4. 積荷やローダのハンドル操作で手足を挟まれないようにしてください。

アドバイス

床搬送装置の取扱

取扱の詳しいことは各装置メーカー発行の取扱説明書をお読みください。

(2) ローラコンベア、ソロバンコンベア類

手軽な荷役機器として広く利用されています。回転部の形状によりローラ、ソロバンと言われ、また本体の形状により直線型・カーブ型などとも呼ばれています。

積荷や用途にあった機種を選定し正しくお使いください。

▲注意

コンベア類の取扱

1. コンベア類での荷役は荷物に手を添えて移動させてください。
2. コンベア類のローラ部に乗ると転倒します。
3. 荷物や回転部に手足を挟まれないでください。



4. ボデー開口部で荷役を行うときは常に転落に気をつけてください。

2. 動力式

ボデーの床面に埋込んだローラを上下させたり床面を移動させるものがあります。

油圧、エア、電力を動力源にした装置があります。

アドバイス

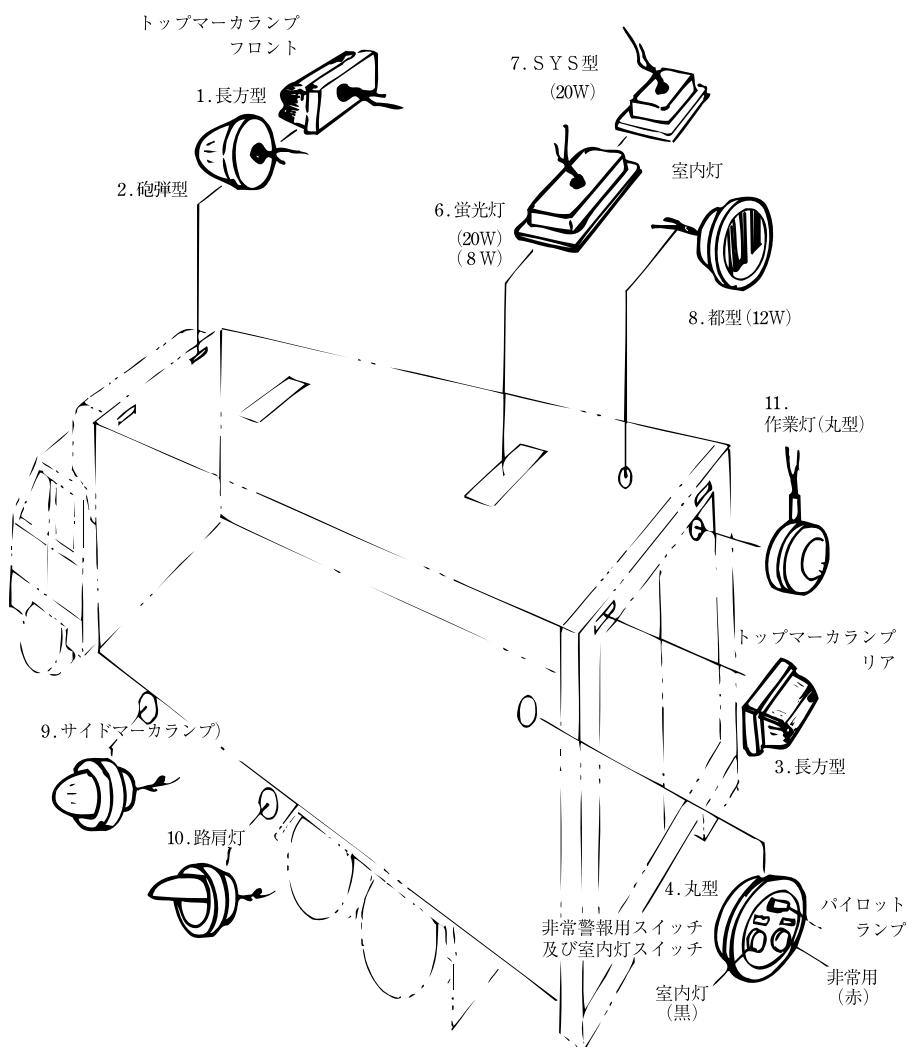
- ・動力式の荷役装置について
積荷やお車の使用条件に合せて正しくお使いください。
- ・機器・装置の細部について
取扱の細部については各装置・機器メーカーの取扱説明書をお読みください。

アドバイス

機器・装置の細部について

取扱の細部については各装置・機器メーカーの取扱説明書をお読みください。

7. 電 装 品



1. 非常警報用スイッチ→NO: 4

非常用のスイッチはボデー内左側後方にあります。

4番丸型の常時点灯している赤色の視認灯（パイロットランプ）の下にあります。

(1)非常警報（スイッチON”）

4番の警報スイッチ（赤）の上側を押すと運転室のブザーまたは車のホーンが鳴り続けます。

(2)警報の解除

ON”状態（鳴り続けている）のときにスイッチの下側を押します。

知識

スイッチのON・OFF

ON : スイッチの上側を押す
OFF : スイッチの下側を押す

操作は：非常警報・室内灯に共通です。

2. マーカランプ→No. 1. 2. 3. 7

トップ・サイドの各マーカランプ 1 or 2 · 3 · 7 番はキャブ内のライトスイッチで点 (消) 灯します。

サイドマーカ 9 番のみ独立スイッチで点 (消) 灯するものもあります。

3. 室内灯→No. 5 or 6

室内灯の点 (消) 灯は 4 番の室内灯スイッチで行います。

(1)点灯→スイッチ (黒) の上側を押して “ON” にすると点灯し続けます。

(2)消灯→点灯状態でスイッチの下側を押すと消灯します。

室内作業灯→No. 9

室内灯と連動するものは 4 番の室内灯スイッチで点 (消) 灯します。

独立スイッチ付きのものは独立スイッチで点 (消) 灯します。

4. 路肩灯→No. 8

サイドマーカランプと連動するものやキャブ内 (外) 独立スイッチで点 (消) 灯するものがあります。

▲注意

消灯してください

1. 室内灯、作業灯は使用後必ず消灯してください。ドアを閉めても自動消灯になりません。
2. 独立スイッチを用いたランプも同じです。
3. 各ランプはエンジンを停止したまま長時間使用しないでください。バッテリ上がりの原因になります。

▲注意

電装品の増設

ドライバンには多くの電装品が装着されています。工場で製造されるときはそれらの電装品についてバッテリ容量やハーネス、消費電力等が充分に検討され基準に適合する製品が出車されています。

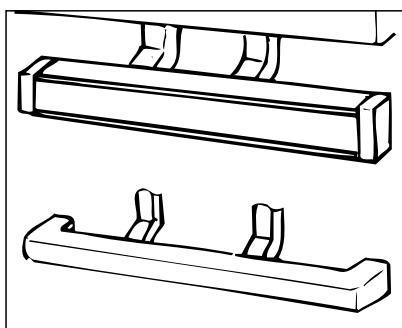
電装品の増設については車両トータルでの検討が必要になります。

8. 付属品装備品

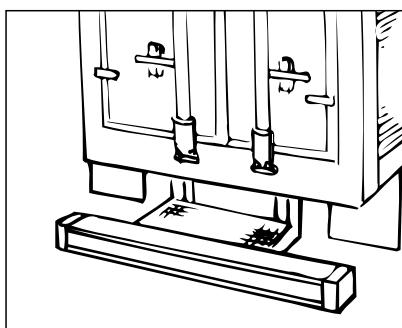
1. リアバンパ

リアバンパにはバンパとステップ兼用バンパがあります。

1. バンパ



2. ステップ兼用バンパ



▲注意

踏外し滑落

1. バンパやステップを足場に使うときは踏外し、滑落に気をつけてください。
2. 特に降雨雪、結氷時は滑りやすくなります。

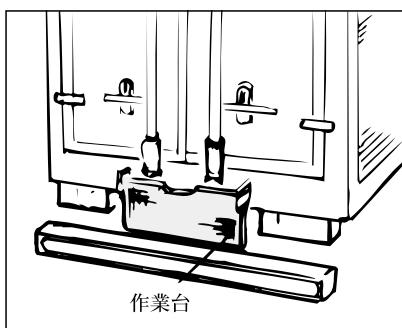
▲警告

リヤバンパなどのガタ

リヤバンパなどのガタつきや緩みがあるまま走行するとリヤバンパが脱落し重大な事故を引き起こします。

2. 作業台

ボディーの後方やサイドでの簡単な作業や荷物の一時置場として使います。



▲注意

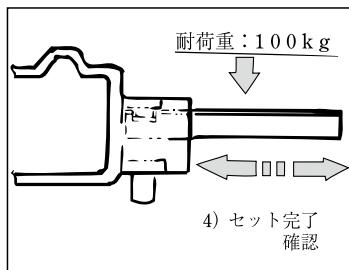
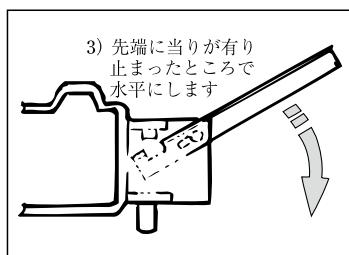
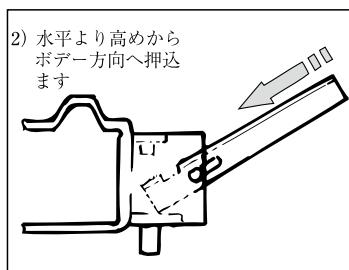
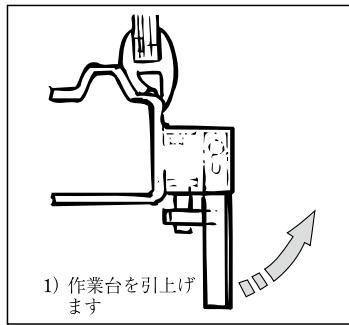
リア作業台の扱いと耐荷重

1. 荷物を落としたり投置きなどをしないでください。
2. 荷物が置いてあるときは乗らないでください。

耐荷重：作業台中心 100kgf

1. リアの作業台

リアの作業台は図のよう



■格納

セット方法の逆の手順で行います。

▲注意

セットの確認

リアの作業台を使用するときは
セットの完了を確かめてください。

▲注意

リア作業台の取扱と耐荷重

1. 荷物を落としたり投げ置きなどをしてしないでください。
2. 荷物が置いてあるときは乗らないでください。

耐荷重：作業台中心 100kgf

▲警告

作業台不良時は使用禁止

作業台の固定が不安定（ガタや緩みなど）・不良及び作業台が変形している場合は使用しないでください。

転落または作業台の脱落の危険があります。早急に修理してください。

▲注意

リア作業台の格納

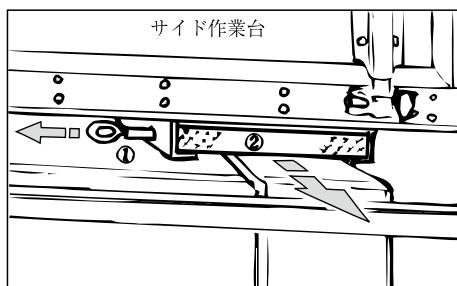
格納は確実に行ってください。

不十分な場合は走行中に作業台が外れて飛出す恐れがあります。

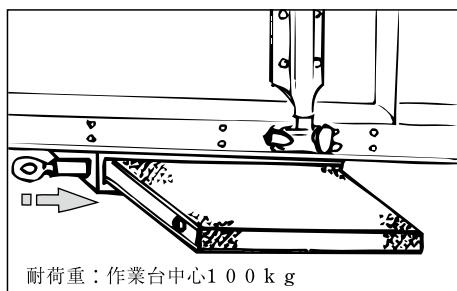
2. サイドの作業台

■サイド作業台のセット方法

- (1)作業台の側面にあるバネ付落錠①を引き出してロックを解除します。
- (2)作業台②を引き出します。



- (3)バネ付落錠を作業台の基部にある受部に嵌合し固定します。



■格納

セット方法の逆の手順で行います。

▲注意

セットの確認

サイドの作業台を使用する場合はセットの完了を確かめてください。

▲注意

サイド作業台の取扱と耐荷重

1. 荷物を落したり投げ置きなどをしないでください。
2. 荷物が置いてあるときは乗らないでください。

耐荷重：作業台中心100kgf

▲警告

作業台不良時は使用禁止

作業台の落錠の不良・ロックが掛からない及び作業台が変形している場合（ガタや緩みなど）は使用しないでください。

転落または作業台の脱落の危険があります。早急に修理してください。

▲警告

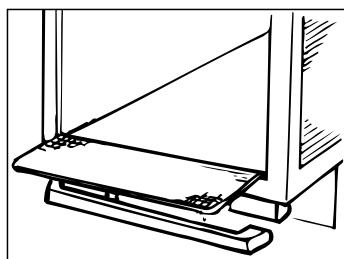
作業台の不十分な格納禁止

サイド作業台は確実に格納してください。

不十分な場合は走行中にロックが外れ作業台が側方に飛出す恐れがあり危険です。

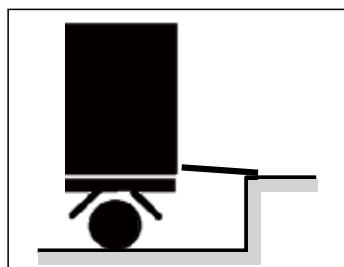
3. 渡し板

ボデーとプラットホーム間で主に使用します。

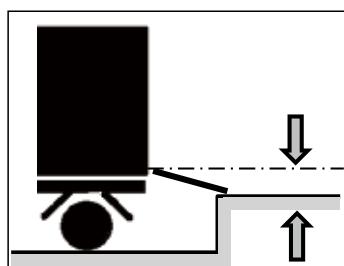


■使い方

(1) 渡し板を使用するときは駐車ブレーキと車輪止めで車両が動かないように固定しプラットホームに先端を十分に載せてください。



(2) 台車の移動時にはボデー床面とプラットホーム段差は70mm以下にしてください。

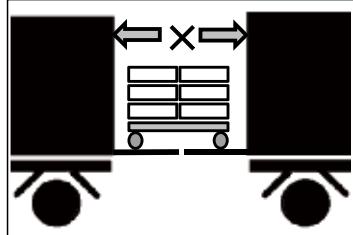


(3) 使用後は“きっちと”格納してください。

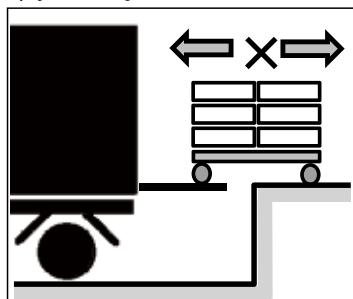
▲警告

次の状態での渡し板使用禁止

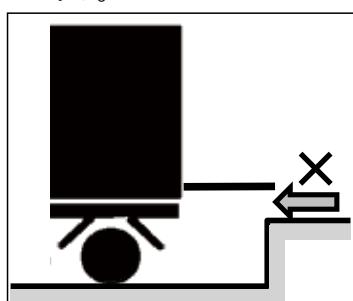
1. 渡し板 ⇄ 渡し板へ



2. 渡し板とプラットホームにすき間がある。



3. 渡し板とプラットホームに段差がある。



▲警告

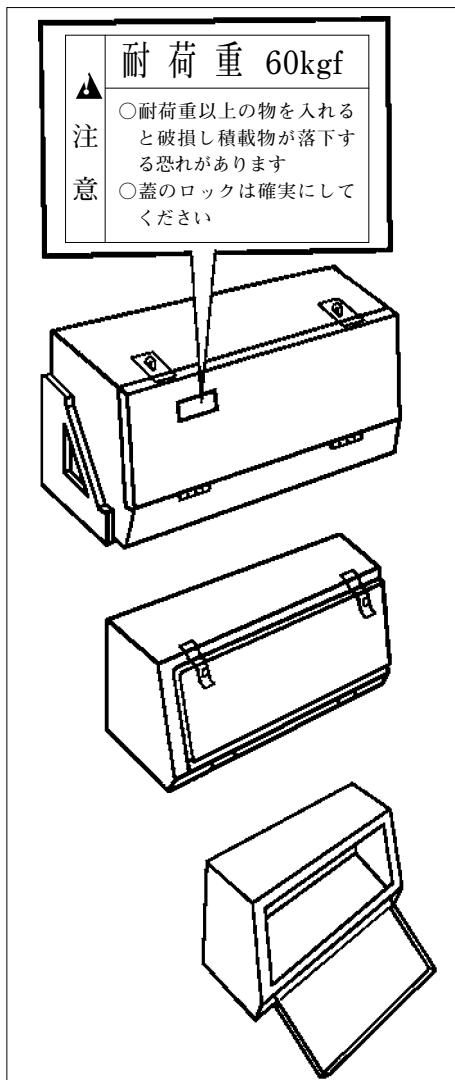
渡し板不良時は使用禁止

渡し板の変形・損傷（ガタや緩みなど含む）が著しい場合は使用しないでください。

人や荷物の転倒・転落・渡し板の脱落など重大な事故につながります。早急に修理してください。

4. 工具箱

工具箱は使用材質と大きさ別に分けると右表「工具箱の種類」のようになります。
また、耐荷重は「工具箱の耐荷重」表のとおりです。



▲警告

工具箱などのガタや緩み

工具箱本体、取付部などのガタつきや緩みがあるまま走行すると工具箱が脱落し重大な事故を引き起こします。

知識

工具箱の種類

材質 サイズ	鉄製	SUS	FRP
大	○	○	○
中	○	○	○
小	○	○	○

▲警告

不良工具箱の使用禁止

損傷・腐食が著しい工具箱は使用しないでください。

内容物が落下により重大な事故を引き起こします。早急に新しい工具箱に交換してください。

知識

工具箱の耐荷重

	長さ mm	耐荷重 kgf
大	900	60
中	700	50
小	500	30

*耐荷重は材質を問わず長さにより区分されます。

▲警告

工具箱の取扱

1. 工具箱には耐荷重を超える積載をしないでください。
2. 内容物の落下防止などのため施錠をしてください。

▲注意

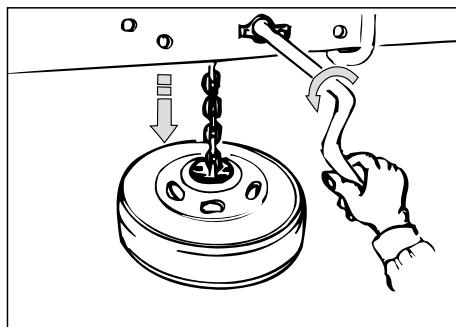
■車両に取り付けの工具箱について。

車両に取り付けの工具箱は防水構造とはなっていません。
水濡れを嫌う物の収納はおやめください。

5. スペアタイヤキャリア

1. スペアタイヤの取外し

- (1) クランクハンドルをセットして左に回すとタイヤが下降します。
ハンガが接地するまで下げてください。

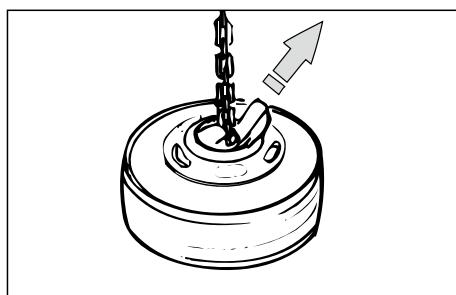


アドバイス

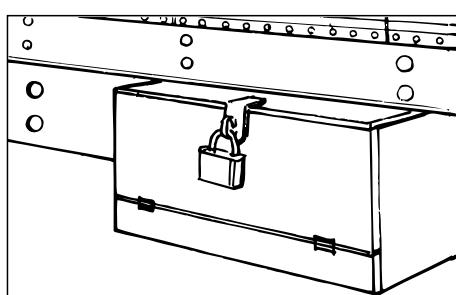
ハンガの格納

スペアタイヤを吊らないときはハンガを巻上げて固定して置きましょう。

- (2) ハンガをタイヤから外すとタイヤの移動が出来ます。



- (3) 使用後のクランクハンドルは工具箱に格納します。



警告

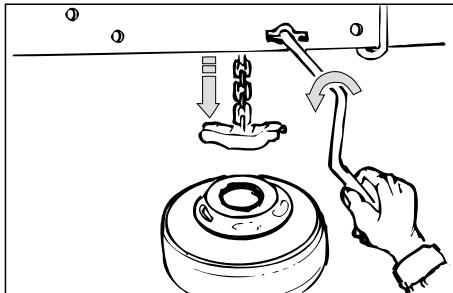
工具箱の取扱

クランクハンドル格納後は蓋を“きっちと”閉め施錠してください。

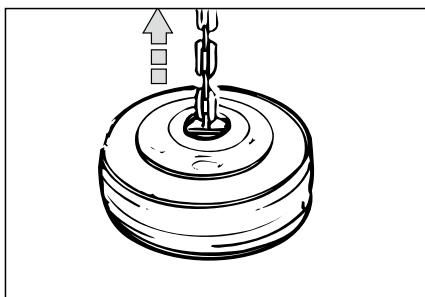
走行中工具箱が開いて積載物が落下すると、後続車や人・物にあたる恐れがあり思わぬ事故の原因になります。

2. スペアタイヤの取付

- (1) ディスクホイールの凸部を上にしてください。
- (2) タイヤをスペアタイヤキャリアの下に運び入れます。
- (3) クランクハンドルを差込み左に回しハンガを下げてください。



- (4) ハンガを斜めにしディスクホイールの内にいれます。
 - (5) ハンドルを右に回しながらハンガを少しづつ吊上げホイールの中心部で左右に均等に掛かるようにします。
- これで吊上げ準備が完了です。



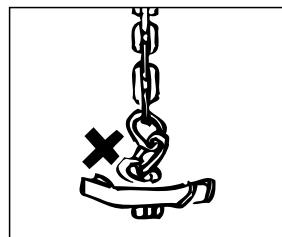
- (6) ハンドルを右に回してスペアタイヤを巻上げます。
- (7) 卷上げ後さらにクランクハンドル先端を下図の力で締め付けを行ってください。タイヤを足で強く押してガタがないことを確認してください。
- (8) 締付けが終わったらハンドルを抜き工具箱に格納します。

スペアタイヤキャリアハンガの締付については、クランクハンドル先端を右表の力で締め付けを行ってください。



アドバイス

チェーンのねじれ



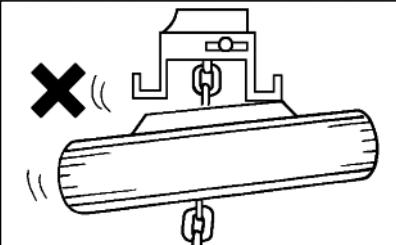
タイヤ吊上げのときはハンガのチェーンのねじれに気をつけましょう。ねじれたまま巻上げると走行中に振動でゆるみタイヤが脱落し重大な事故を引き起します。

警告

スペアタイヤ本体及びキャリアハンガのガタや緩み・損傷

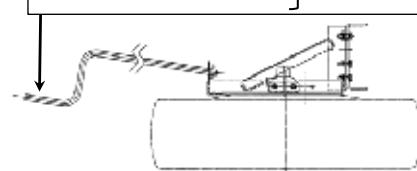
スペアタイヤ本体及びキャリアハンガに緩みやがた及び損傷があるまま走行するとタイヤなどが脱落し重大な事故を引き起します。

スペアタイヤの重量は：1本120kg超えのものもあります。



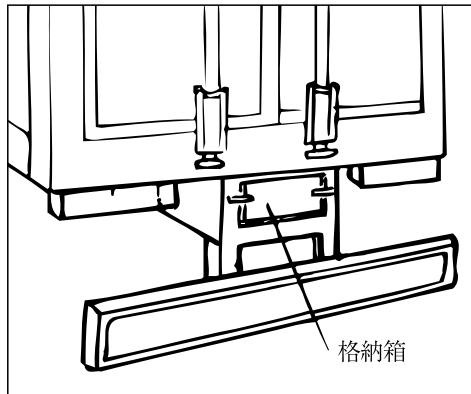
※スペアタイヤ、スペアタイヤキャリア、ツールボックスについては、3ヶ月ごとの法定点検が定められています。

小型 240~355N(24.4~36.2kgf)
中型 215~315N(21.9~32.1kgf)
大型 265~395N(27.0~40.3kgf)



6. 後部格納箱

車両後部シャシフレーム間に設置されます。ローダ格納箱とローラコンベア格納箱があります。



▲警告

内容物の落下

後部格納箱にローダなどを積み込んだ後は蓋に取り付けてある「落し錠」でしっかりと施錠してください。

積込品のローダやコンベアが落下すると重大な事故に結びつく恐れがあります。

▲警告

格納箱不良時の使用禁止

格納が錆・損傷が著しい場合は使用しないでください。

内容物の落下により重大な事故を引き起こします。早急に修理してください。

9. 点検・お手入れについて

1. 新車時の点検

新車時の点検は使用開始後1ヶ月目に実施し適切な整備を行なってください。

点検項目は下記「点検項目」を参照してください。

2. 日常点検・定期点検

ドライバンを効率的に使用し快適な輸送をしていただくためには日常点検・定期点検及び整備が必要です。点検は下記「点検項目」にもとづき実施してください。

■点検項目

点 檢 箇 所		点 檢 内 容	点検整備時期
装 置 名	部品・組立部品		
下廻り部	燃料タンク	漏れ・変形・がた	日常点検
	リアフェンダ	変形・損傷・取付部の緩み	12か月ごと
	ツールボックス（各種物入れ）	作動・変形・損傷・取付部の緩み	3か月ごと (注)
	タイヤキャリア・スペアタイヤ	作動・変形・損傷・取付部の緩み・錆	3か月ごと (注)
	タイヤチェーン掛け	変形・損傷・取付部の緩み・錆	3か月ごと
	灯火器	点灯・破損・がた	日常点検
架装部 (結合部)	U・架装ボルト・滑り止め	変形・損傷・取付部の緩み・錆	1か月ごと
	滑り止め・スペーサ	ズレ・外れ・脱落	1か月ごと
	サブフレーム	変形・損傷・錆	1か月ごと
	アングルクリップ	変形・損傷・取付部の緩み・錆	1か月ごと
ガード ステップ	ステップ	変形・損傷・取付部の緩み・錆	1か月ごと
	リアバンパ	変形・損傷・取付部の緩み・錆	1か月ごと
	サイドバンパ	変形・損傷・取付部の緩み・錆	3か月ごと
ドア及び ドアフレーム	リアドア・サイドドア	ドア本体・金具の変形・損傷・取付部の緩み・錆	3か月ごと
		開閉が円滑に作動・異音・がた・取付部の緩み	日常点検
		フレームの損傷・塗装剥離・錆	3か月ごと
		非常解除装置の作動	日常点
	スライドドア	開閉が円滑に作動・異音・がた・取付部の緩み	日常点検
ドア部品・組立部品	ワンタッチロック装置	作動・取付部の緩み・錆	日常点検
	ドアケーブル・巻取機構 (シャフト・スプリング・ガイドレール)	作動・変形・損傷・取付部の緩み・錆	1か月ごと
外板	両サイド・フロント・ルーフ	変形・損傷・歪・膨らみ・リベットの緩み・塗装剥離	3か月ごと
内板	両サイド・フロント・ルーフ	変形・損傷	3か月ごと
	床	変形・損傷	3か月ごと
緊締装置類	ラッシングレール他	変形・損傷・取付状況・錆	1か月ごと
電装品	スイッチ・ランプ	作動・損傷	日常点検
	非常警報装置	作動・損傷	日常点検
	バッテリ	液量・端子の点検	3か月ごと

※点検の結果については内容により調整・増締・修理・整備・予防整備を実施してください。

※ボルトの緩みについては上記以外の箇所も点検し緩みのある場合は増し締めを実施してください。

※スペアタイヤ・ツールボックス等の参考事例については、巻末の「付属書」をご覧ください。

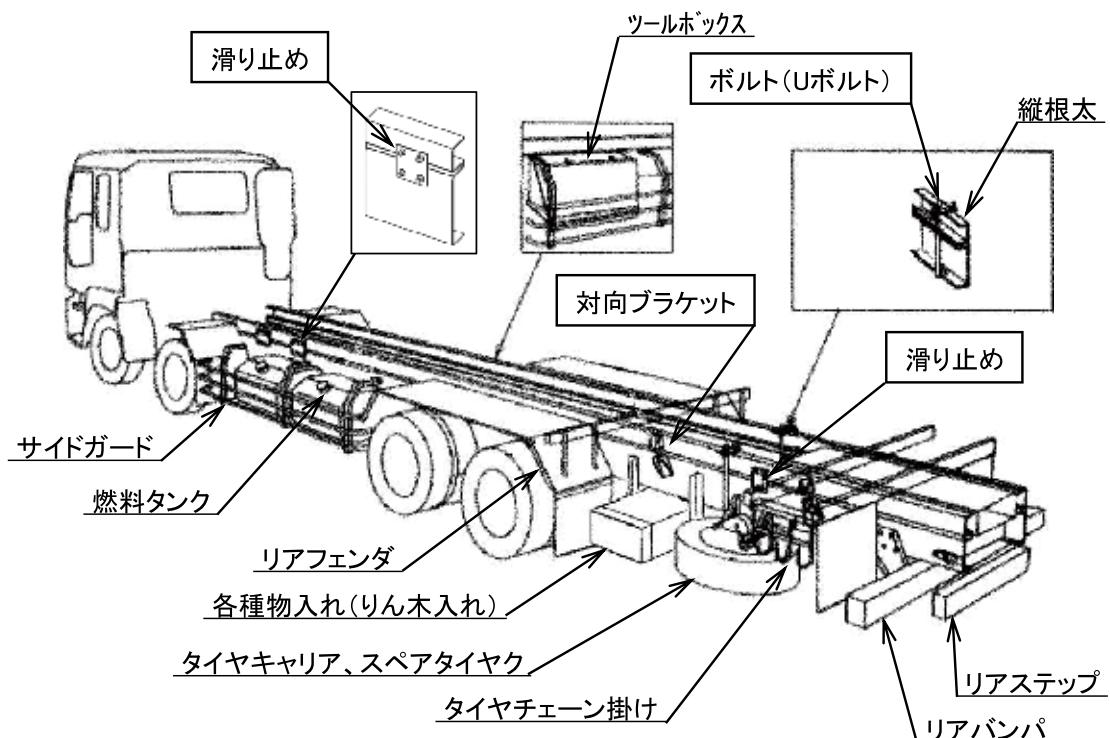
(注) 車両総重量8t以上の大型トラック・トレーラについては道路運送車両法にもとづく「自動車点検基準」で義務化されております。

●点検箇所と名称

【下廻り部】

【結合部】

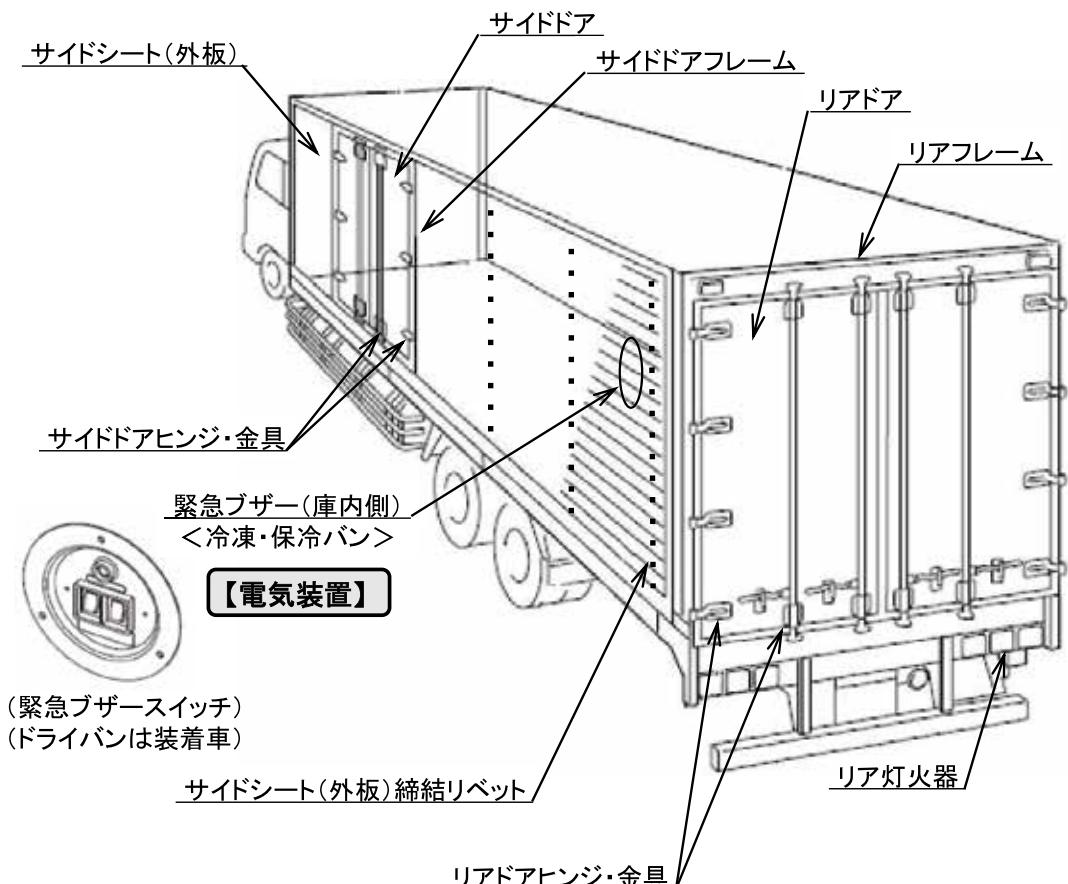
枠内は、結合部(シャシーと架装物の連結部)を示します。



※この図は、シャシーからボデー部を取り除いた状態を示します。

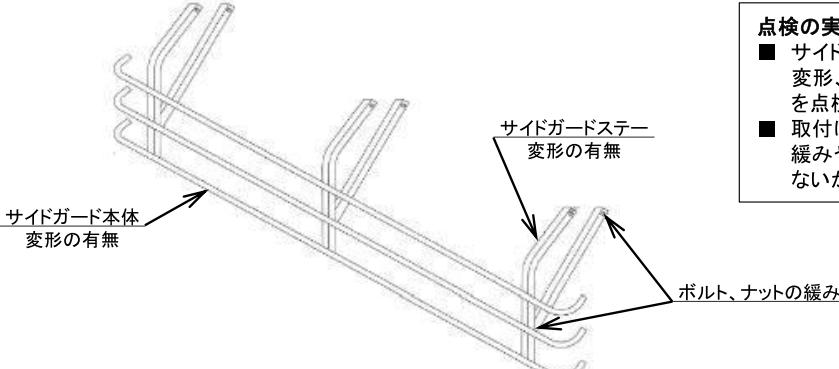
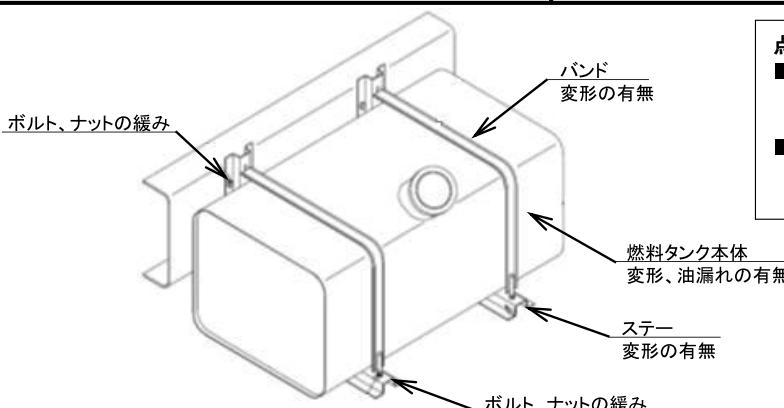
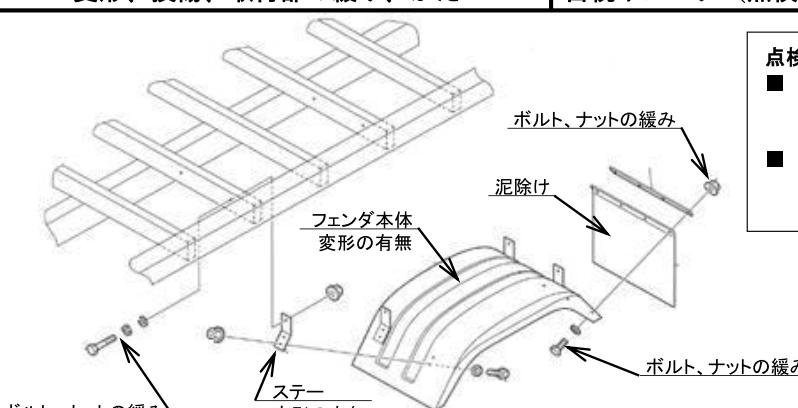
●点検箇所と名称

【ボデー部】 ドライバン/冷凍・保冷バン



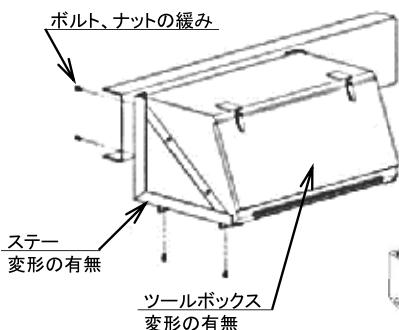
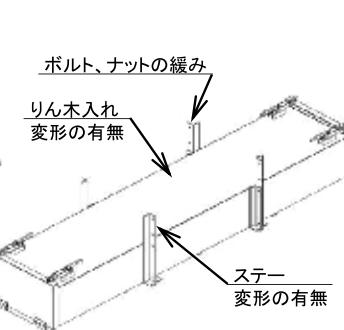
●点検要領

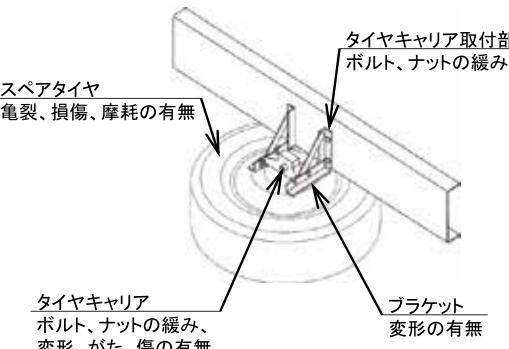
【下廻り部】

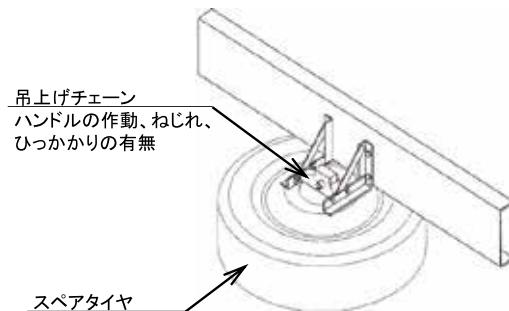
点検箇所	サイドガード	
点検項目	点検方法	
変形、損傷、取付部の緩み、がた	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検	
		点検の実施方法 <ul style="list-style-type: none"> ■ サイドガード本体やステーに変形、曲がり等の損傷がないかを点検する。 ■ 取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷及び腐食がないかを点検する。
点検箇所	燃料タンク	
点検項目	点検方法	
漏れ、変形、損傷、取付部の緩み、がた	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検	
		点検の実施方法 <ul style="list-style-type: none"> ■ 燃料漏れ、タンク、バンド、ステーなどに、変形等の損傷がないかを点検する。 ■ 取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷及び腐食がないかを点検する。
点検箇所	リアフェンダ	
点検項目	点検方法	
変形、損傷、取付部の緩み、がた	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検	
		点検の実施方法 <ul style="list-style-type: none"> ■ フェンダ本体やステーなどに、変形、曲がり等の損傷がないかを点検する。 ■ 取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

●点検要領

【下廻り部】

点検箇所	ツールボックス(各種物入れ)
点検項目	点検方法
変形、損傷、取付部の緩み、がた	
【ツールボックス】	【りん木入れ】
	
	<p>点検の実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 本体やステーに変形等の損傷がないかを点検する。 ■ 取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

点検箇所	タイヤキャリア
点検項目	点検方法
変形、損傷、取付部の緩み、がた	
	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検
	<p>点検の実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スペアタイヤを取り外し、次の点検を行います。 ■ タイヤキャリアの取付部に緩みがないかをスパナなどにより点検します。また、損傷がないかを目視などにより点検します。 ■ タイヤキャリアに緩みがないかをスパナなどにより点検します。また、がたがないかを手で揺るなどして点検します。さらに、損傷がないかを目視などにより点検します。 ■ スペアタイヤのディスク・ホイールについて、ボルト穴や飾り穴の周り及び溶接部に亀裂及び損傷がないかを目視などにより点検します。また、タイヤキャリアとディスク・ホイール合わせ面に摩耗や損傷がないかを目視などにより点検します。

点検箇所	スペアタイヤ
点検項目	点検方法
変形、損傷、取付部の緩み、がた	
	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検
	<p>点検の実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スペアタイヤを取り付ける際に次の点検を行います。 ■ タイヤキャリアのハンドルが円滑に回ること及び吊上チェーンにねじれやひっかかりがないことを確認し、規定トルクで締め付けます。 ■ スペアタイヤを取り付けた後、スペアタイヤに異常な傾きがないかを目視などにより点検します。また、スペアタイヤの取付けに緩みがないかをスペアタイヤを強く押すなどして点検します。
	<p>※ハンドル先端締付力については9.付属品装備品の5.スペアタイヤキャリアをご覧ください</p>

●点検要領

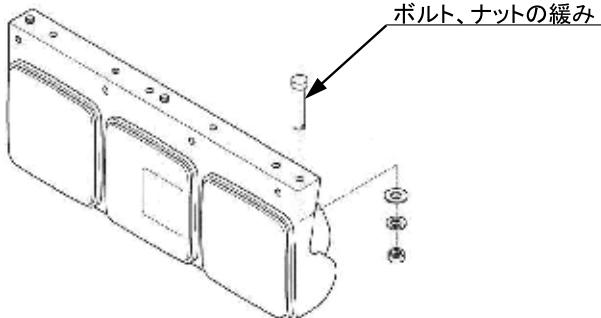
【下廻り部】

点検箇所	タイヤチェーン掛け
点検項目	点検方法
変形、損傷、取付部の緩み、がた	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 点検の実施方法 <ul style="list-style-type: none"> ■ チェーンフックやステーに、変形等の損傷がないかを点検する。 ■ 取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。 </div>	
点検箇所	リアバンパ
点検項目	点検方法
変形、損傷、取付部の緩み、がた	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 点検の実施方法 <ul style="list-style-type: none"> ■ リアバンパ本体やステーに、変形等の損傷がないかを点検する。 ■ 取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。 </div>	
点検箇所	リアステップ
点検項目	点検方法
変形、損傷、取付部の緩み、がた	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 点検の実施方法 <ul style="list-style-type: none"> ■ リアステップ本体やステーに変形等の損傷がないかを点検する。 ■ 取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。 </div>	

●点検要領

【下廻り部】

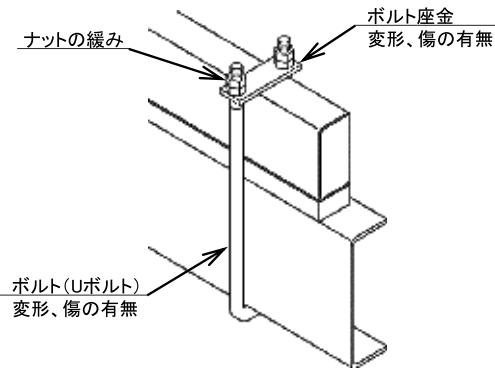
点検箇所	リア灯火器	
点検項目	点検方法	
変形、損傷、取付部の緩み、がた	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検	<p>点検の実施方法</p> <ul style="list-style-type: none">■ 灯火器本体やステーに、変形等の損傷がないかを点検する。■ 取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。



●点検要領

【結合部】

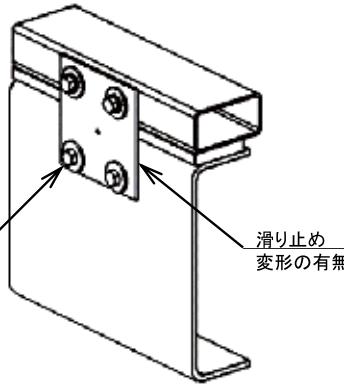
点検箇所	ボルト(Uボルト)
点検項目	点検方法
変形、損傷、取付部の緩み、がた	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



点検の実施方法

- ボルト本体やボルト座金に、変形等の損傷がないかを点検する。
- 取付けナットに、緩みやがたがないかを点検する。

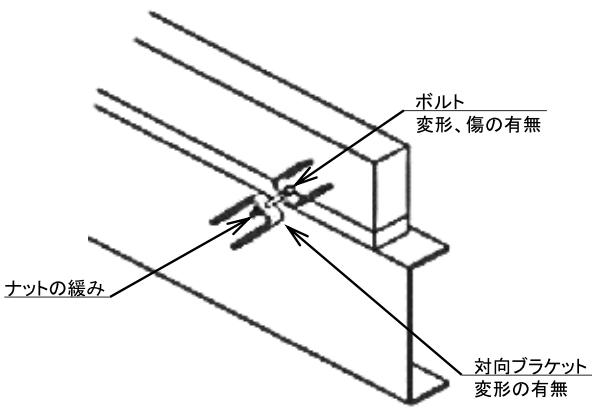
点検箇所	滑り止め
点検項目	点検方法
変形、損傷、取付部の緩み、がた	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



点検の実施方法

- 滑り止めに、変形等の損傷がないかを点検する。
- 取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

点検箇所	対向プラケット
点検項目	点検方法
変形、損傷、取付部の緩み、がた	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



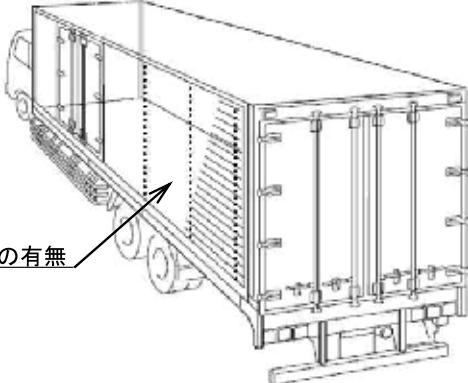
点検の実施方法

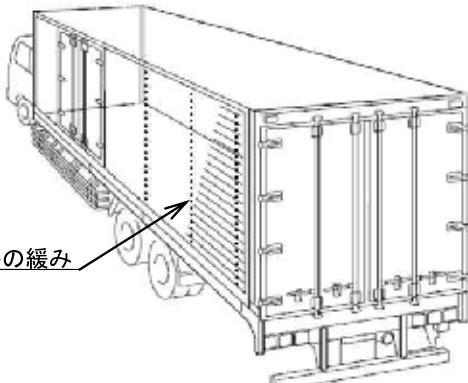
- 対向プラケットに、変形等の損傷がないかを点検する。
- 取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

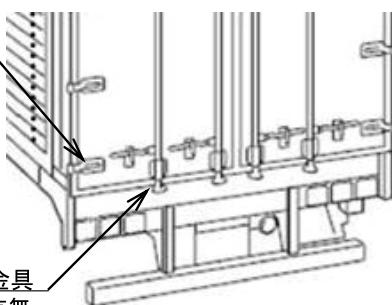
●点検要領

【ボデ一部】

〔ドライバン/保冷・冷凍バン〕

点検箇所	サイドシート(外版)	点検方法
点検項目	変形、損傷	目視などによる点検
	 <p>サイドシート(外板) 変形の有無</p>	<p>点検の実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ サイドシート(外板)に、変形や損傷がないかを点検する。

点検箇所	サイドシート締結リベット	点検方法
点検項目	緩み、がた、損傷	目視やスパンナ(点検ハンマー)などによる点検
	 <p>サイドシート締結リベットの緩み</p>	<p>点検の実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ サイドシート(外板)の締結リベットに、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

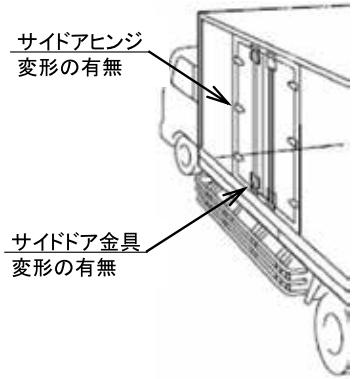
点検箇所	リアドアヒンジ・金具	点検方法
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた	目視やスパンナ(点検ハンマー)などによる点検
	 <p>リアドアヒンジ 変形の有無</p> <p>リアドア金具 変形の有無</p>	<p>点検の実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ リアドアヒンジや金具に、変形等の損傷がないかを点検する。 ■ 取付けボルトやナットに緩みやがた、損傷がないかを点検する。

●点検要領

【ボデ一部】

〔ドライバン/保冷・冷凍バン〕

点検箇所	サイドアヒンジ・金具	点検方法
点検項目 変形、損傷、取付部の緩み、がた		目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



点検の実施方法

- サイドアヒンジや金具に、変形や損傷がないかを点検する。
- 取付けボルトやナットに緩みやがた、損傷がないかを点検する。

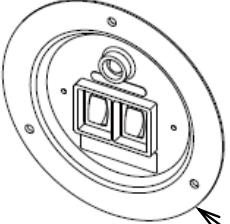
-71-

【電気装置】

〔冷凍・冷蔵バン〕

〔ドライバン(装着車)〕

●点検要領

点検箇所	緊急ブザー	点検方法	〔ドライバン(装着車)〕
点検項目	作動	点検方法	聴音による点検
		<p>点検の実施方法</p> <p>■ 庫内のスイッチを作動させた時、緊急ブザーが鳴ることを点検する。</p> 	

3. お手入れ

1. ボデー外板のお手入れ

- 水洗をしてください。
- 汚れのひどい場合は中性洗剤を使用してください。
- 柔らかい布やセーム皮で洗い落とします。ブラシを使用するときは柔らかいものを選びます。
- 看板や塗装・文字には堅いブラシや洗車機を強く当てないでください。
- 洗車後は外板に斑点が残らないように水切り拭取りをしてください。

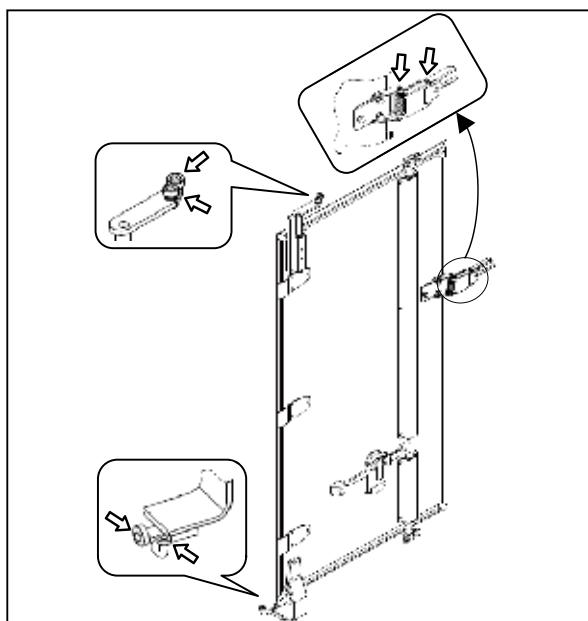
2. ボデー内のお手入れ

- 普段は箒などで掃き掃除をしたり、モップ掛けや乾拭きをします。
- ボデー内部の水洗いはしないでください。

3. スライド式サイドドアの給脂 (毎月1回)

ドアの開閉をいつも良好な状態に維持するために月に1度給脂をしてください。

NFスライドドア



アドバイス

ボデー内清掃と内装材

ボデー内はいつも清潔にしておきましょう。

塩分、油脂分などが付着し残留すると、内装材の劣化を促進させ、また腐食の原因になります。

アドバイス

ボデー下回りのお手入れ

特に降雪地域を走行したときは、融雪剤対策のために、ボデーの下回りをブラシなどを使用して十分に水洗いをしてください。

▲注意

ボデー内の水洗は禁物です

ボデー内部、特に床面は水洗しないでください。水洗すると床板の反上がり・床タッピンの飛び又は腐食の原因になります。

鉄板張・アルミ板張・合板についても同じです。

油脂名	シャシグリース
規格 名 称	JIS K 2220 自動車用シャシグリース 1種1号

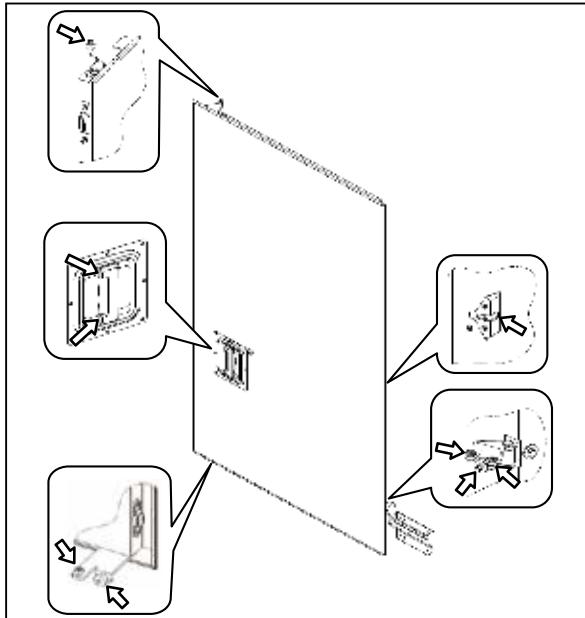
※スプレー式グリースの使用を推奨します。

▲注意

ベアリング部への給脂について
ベアリングに、『溶剤入りスプレー式潤滑剤 (CRC5-56など)』を吹き付けると、ベアリング内のグリースが溶け出し、ベアリングの寿命を短くします。

上記潤滑剤は使用しないでください。

ワンタッチスライドドア



油脂名	シャシグリース
規 格 名 称	JIS K 2220 自動車用シャシグリース 1種1号

※スプレー式グリースの使用を推奨します。

▲注意

ベアリング部への給脂について
ベアリングに、『溶剤入りスプレー式潤滑剤 (CRC5-56など)』を吹き付けると、ベアリング内のグリースが溶け出し、ベアリングの寿命を短くします。

上記潤滑剤は使用しないでください。

4. 鍵穴への給脂 (毎月1回)

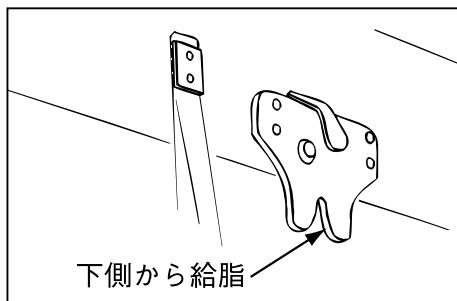
- 1) 1ヶ月に1回はキーを使用し、作動を確認してください。
- 2) 定期的にキー差込み穴よりスプレー鍵穴用ドライタイプ潤滑剤を注入してください。

5. ボデー各部への給脂 (毎月1回)

ボデー各部の可動部 (回転部・ピン・ヒンジ部等摺動部) には良好な作動状態を維持するため、月に1回は給脂をしてください。

6. ロールアップドアのワンタッチロック内部への給脂 (毎月1回)

ワンタッチロックが確実にロックすることを維持するため、月に1回は給脂をしてください。



7. 非常脱出装置のお手入れ

- 3ヶ月に1回は非常脱出装置の作動を確認してください。
- (非常脱出装置装着車のみ)

8. 樹脂部品（サイドマーカーランプ、ルームランプ、テールランプ等）のお手入れ

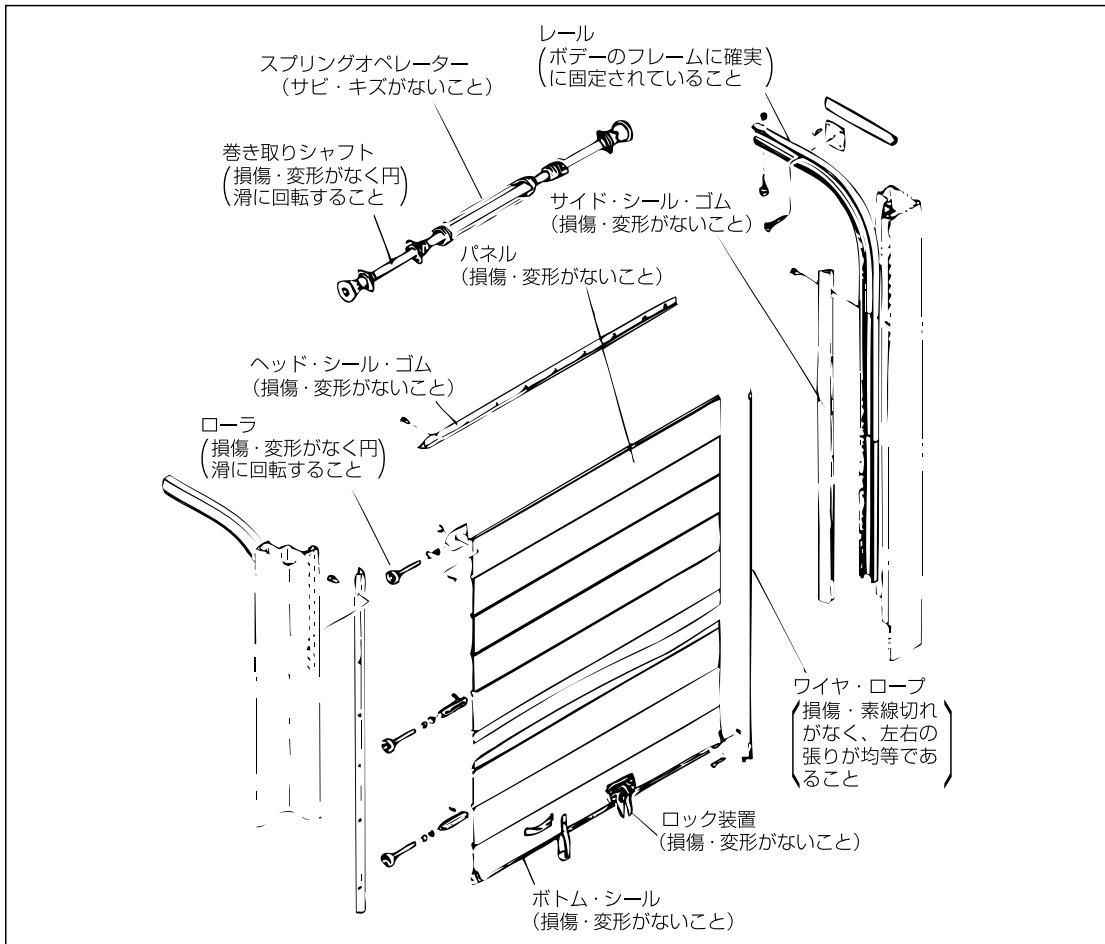
1. 表面についていた砂やほこりをていねいに取除きます。隅の清掃は歯ブラシを利用すると便利です。
2. 水でぬらした柔らかい布又はスポンジ・市販のメラミンフォーム材などで全体の汚れを拭き取ります。特に汚れがひどい場合は、中性洗剤で汚れを落とし、その後水洗いします。
3. 最後に、かたく絞った柔らかい布又はスポンジで全体を拭き取ります。

※お手入れのご注意

1. 洗浄剤は、中性のものを使用してください。
2. 酸性薬品、アルカリ性薬品、塩素系薬品、アルコール系薬品及び有機溶剤は樹脂部材を溶かしたり、早期劣化、ひび割れを引き起こしますので絶対に使用しないでください。
3. お手入れの際には柔らかい布又はスポンジ・市販のメラミンフォーム材などを使い、ワイヤーブラシやサンドペーパーのご使用はおやめください。
4. マジックインクや塗料が附着すると落ちなくなりますのでご注意ください。

4. ロールアップドアの点検

ロールアップドアは図に指定する箇所の損耗や変形等について点検します。



5. 定期交換部品と消耗品

1. 定期交換部品

次の各部品は定期に交換してドライバンの性能と機能を維持し安全・快調な状態でご使用ください。

※使用頻度・環境により変化するため、交換時期の参考にしてください。

ロールアップドアワイヤロープ、ドアガスケット類

(1年)

ロールアップドアスプリングオペレーター

(2年)

2. 消耗部品

次の部品は通常の使用や経年変化等により消耗・摩耗・劣化する部品です。日常(使用前)・定期点検時を利用して損耗状態を確かめ早めの手入れ交換が大切です。

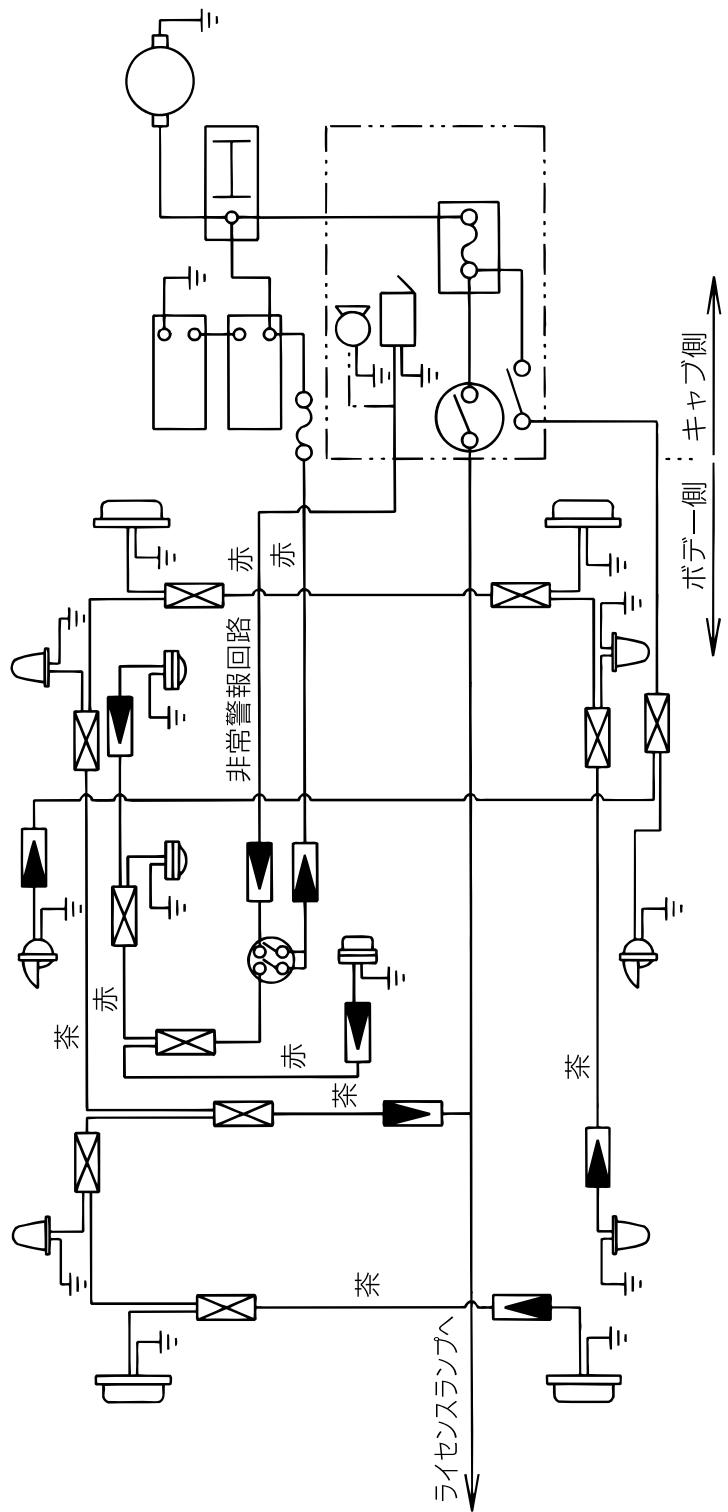
電球、ヒューズ、油脂類、ロールアップドアローラ、ゴム製品類、ブッシュ、ガスダンパ
スライドドア ベアリング、鍵及びキー、内外板のシーラー(コーティング剤)

※消耗部品は、保証対象にはなりません。(保証書に記載有)

6. 参考配線図

配線図記号等の説明

記号	略記号	名 称	記号	略記号	名 称
▲	コネクター、オス	コネクター、オス	□	コネクター、メス	コネクター、メス
■	コネクター、2種	コネクター、2種	△	スイッチ	スイッチ
○	ヒューズ	ヒューズ	○	ブザー ホーン	ブザー ホーン
—	アース	アース	—	—	—



付属書

スペアタイヤ/スペアタイヤ取付装置/ツールボックス 3か月毎の定期点検*として義務について

* ここでの定期点検とは、道路運送車両法に基づく法定点検です

追加された点検項目と点検実施方法

～事故防止のため、確実な点検・整備をお願いします。～

●スペアタイヤ

※スペアタイヤとは・・・フレームやボディーなど、車外に取付けられている予備のタイヤ

①スペアタイヤ取付装置の緩み、がた及び損傷

※スペアタイヤを取り外し、次の点検を行います。

- ・スペアタイヤ取付装置の取付部に緩みがないかをスパナなどにより点検します。
また、損傷がないかを目視などにより点検します。
- ・スペアタイヤ取付装置に緩みがないかをスパナなどにより点検します。また、がたがないかを手で揺するなどして点検します。さらに、損傷がないかを目視などにより点検します。
- ・スペアタイヤのディスク・ホイールについて、ボルト穴や飾り穴の周り及び溶接部に亀裂及び損傷がないかを目視などにより点検します。また、スペアタイヤ取付装置とディスク・ホイール合わせ面に摩擦や損傷がないかを目視などにより点検します。

②スペアタイヤの取付状態

※スペアタイヤを取り付ける際に次の点検を行います。

- ・スペアタイヤ取付装置のハンドルが円滑に回ること及び吊上チェーンにねじれやひっかかりがないことを確認し、規定トルクで締め付けます。
- ・スペアタイヤを取り付けた後、スペアタイヤに異常な傾きがないかを目視などにより点検します。また、スペアタイヤの取付けに緩みがないかをスペアタイヤを強く押すなどして点検します。

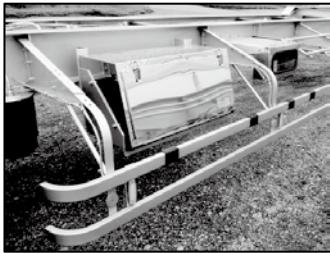
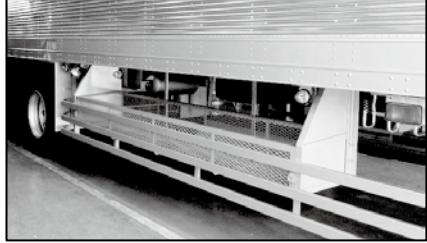
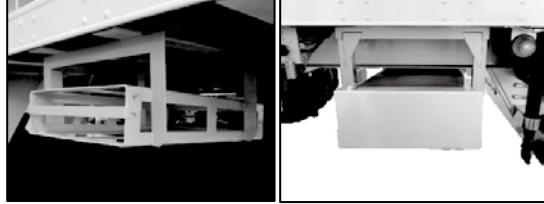
●ツールボックス

※ツールボックスとは・・・フレームやボディーなど、車外に取り付けられた工具箱や資材入れ等。
参考事例は次ページ参照。

③ツールボックスの取付部の緩み及び損傷

※ツールボックスの取付部に緩みがないかをスパナなどにより点検します。また、損傷がないかを目視などにより点検します。

★ツールボックス等の参考事例
1)ツールボックスに【該当する】もの

事例(参考画像)	構造・取付方法・使用目的等
	板状の箱 フレーム側面へ取付
	エキスパンドメタルの箱 箱の上面はオープン 荷台下のフレーム側面へ取付 主にりん木入れとして使用
	板状の箱 フレーム下面へ取付 主に溝埋め材入れとして使用
	板状の箱 後面はオープン、帯板の飛出し防止付き フレーム後部下面へ取付 主に台車入れとして使用
	板状の箱 側面はオープン、丸棒の飛出し防止付き フレーム側面へ取付 主に台車入れとして使用
	板状の箱(六面体に限らず) フレーム側面へ取付 消火器入れとして使用

★ツールボックス等の参考事例
1)ツールボックスに【該当する】もの

事例(参考画像)	構造・取付方法・使用目的等
	<p>板状の箱 上面はオープン、下面は、すのこ状の板 荷台前立て上前部へ取付 主にシート入れとして使用</p>
	<p>ペール缶受け 平板を床とし、ペール缶がズレ落ちぬよう 丸棒を円状に配置した専用受け 左写真は巻込み防止装置へ取付</p>
	<p>上面はオープン、下面は、すのこ状の板、 側面及び前面は丸棒で構成のシート置き トレーラ単体での輸送効率化(全長制限) のため折り畳み可能としている</p>

2)ツールボックスに【該当しない】もの

事例(参考画像)	構造・取付方法・使用目的等
	ウイング扉のパワーユニット (モータ、油圧ポンプ等)ボックス 荷台床面へ取付
	テールゲートリフターのパワーユニット (モータ、油圧ポンプ等)ボックス 左写真はテールゲートリフターへ取付したもの 車枠や荷台へ取付することもある
	テールゲートリフターの荷台操作ボックス フレーム側面へ取付 左写真はテールゲートリフターへ取付したもの 車枠や荷台へ取付することもある
	チェーン掛け チェーンを掛けるためのフック
	車輪止め受け(タイヤ歯止め入れ) 平板と帯板で構成された車輪止め (タイヤ歯止め)専用受け 脱落防止の帯ゴム取付け部有り 左写真は巻込み防止装置へ取付 フレーム側面等へ取付することもある
	消火器受け 平板を床とし、消火器をバンドで固定する 専用受け 左写真は巻込み防止装置へ取付たもの

2026年1月改訂

ドライバン取扱説明書

日本フルハーフ株式会社
サービス部

(不許複製)

